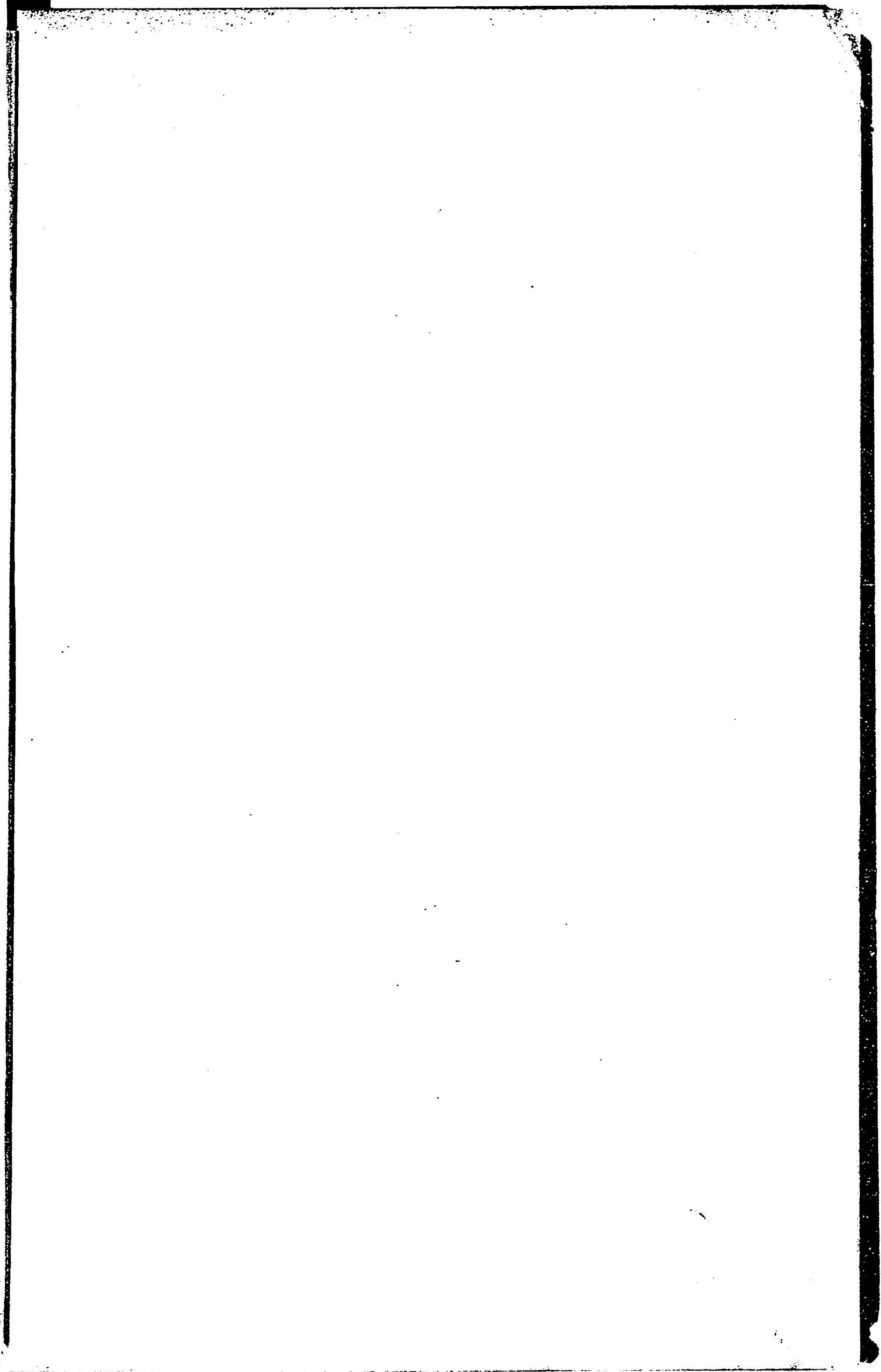




振興策
(獨逸之實驗)



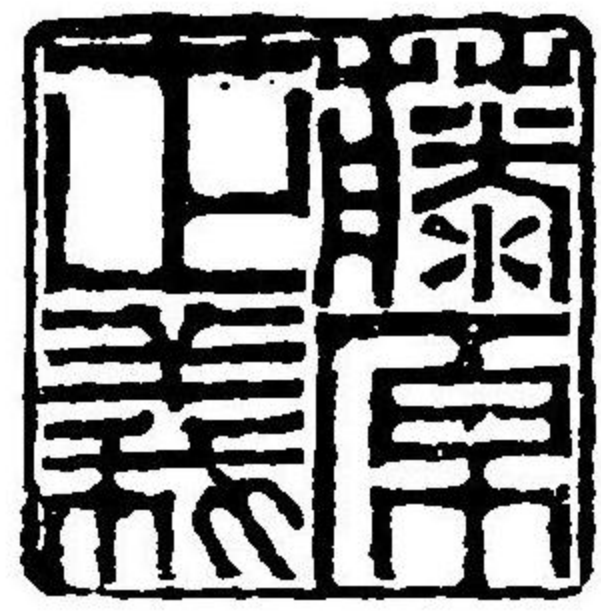


心專事成
業精國興



戊申秋

海東題



深究之于學理廣施
之于實務即是徑
濟之要訣

世外居士題



拜啓

益々御勇健大慶之至に御座候陳者實業振興策と題する稿本一冊御贈與に預り逐一拜見近頃會心の好著と存候皇國の國情も今や經濟上の一轉機に際し實力の基礎を確定すべき場合に立到候へば本書に詳述せられたる獨逸帝國の實例は眞に無二の好羅針盤

たるべしと存候獨逸の如き天然及び
人爲の障礙多き國に於て斯くも偉大
の事業を爲し得たりとせば天然の恩
惠尠からざる我邦に於ては更に多く
を爲し得べき儀に有之候べく眼前一
箇の實例は千百の説法に優る此際本
書の如きを一般世間に御紹介相成候
は時の宜しきを得候而已ならず又事

の宜しきを得たるものと存候一言贊
成の意を申述度如此御座候早々頓首

四十一年十一月

桂 太郎

益田 孝 様

玉 几 下

例言

一、昨年益田孝氏の歐米を巡遊して、各國の進歩繁榮を視察するや、特に基礎堅實にして設備周匝なる獨逸の實業と、計畫無限にして規模宏大なる米國の實業とに留意する所ありき。歸來、一冊子を示して曰く、これ偶々、太平洋歸航の船中、松方幸次郎氏の手にしたるを借り得たるもの、必ず通讀の價あり、而も又、書中の教訓にして、我が實業振興策に資すべきものあらば、之を一般に紹介するも亦可ならずやと。これ此書ある所以の一也。執つて原書を讀むに、米國人の觀察點より、獨逸實業發達の事蹟を討尋攷究したるものにして、單に顯著なる事實を網羅し得て遺憾なきのみならず、此の事實に對する原因の所在を闡明し得て、明快透徹なり。近代に

於て、最も偉大なる實業的進歩を實驗したる米人の眼を以て、他の偉大なる進歩を評論するもの、所謂惺々識惺々にあらずや。これ此書ある所以の二也。天然の富源無盡藏なる米國に於ては、倣さんと欲して倣し得ざるなく、其の絶大なる進歩は、唯だ羨望の情を激するのみ。若しそれ天然及び人爲の障礙、殆ど備はらざるなき獨逸が、彼の米人をすら驚殺せんとする事業を遂行し得たるに至つては、進歩の徑路を同じくする邦國の爲めに、眼前の好模範たり。豈單に我が實業振興策に資すのみと云はむや。これ此書ある所以の三也。

一、本書はアール、チーンホワード (Earl Dean Howard) 氏の原著を適宜と信すべき範圍に於て取捨譯述したるものなり。

一、原著は『近時に於ける獨逸實業發達の原因及程度』(The Cause and

Extent of the Recent Industrial Progress of Germany) と題せらる。

一、譯本、題するに『實業振興策』を以てしたるは、一篇八章の論文獨逸實業發達の最も顯著なる事蹟を攷究するにありと雖も、而も徹頭徹尾、舊國にも新國にも適用するを得べき、實業振興策にして、且つ之に加ふるに、獨逸に於ける實地經驗の極印を以てしたるものなれば也。

一、原著はシカゴのハート、シャフナー、マルクス組合 (Messrs. Hart Schaffner and Marx) が募集したる懸賞論文の一にして、シカゴ大學のラフリン教授 (Professor J. Laurence Laughlin) を委員長としたる五名の審査委員の推薦により、一等賞を贈られたり。

一、原著は米國人の注意を喚起せんとを、一の目的としたるが故に、之を我が讀者に紹介するに當りては、自ら節畧を宜しとする部分

なきにあらず。此の如き部分は、適宜に之を按排し、若くは説明の順序を變更したり。而も要所窮所に至りては、一も遺漏なきを期す

一、本書第四章、第五章、第六章、第七章に論述する所は、實務家も、理論家も共に多大の興味を感ずべし。特に獨逸人の實業的適能を、一々分析説明したる一章は、今や國民の經濟的狀態一變せんとする我邦の爲めに、前途を指示したるの感なくんばあらず。此他原著者が、獨逸實業發達の原因として、列擧したる要件の或るもの、即ち教育機關の設備の如きは、此の模型により、既に或る程度まで、我邦に於ても實施せられたりと雖も、此の如き設備の活用、及び學問と實際との連絡等に至りては、尙ほ多くの學ぶべき所あり。若し夫れ被傭者及び職工に對する幸福増進制度の如きに至りては、遠からず解決を要する問題として、我が讀者の參考に資す

る所、尠なからざるべきを信ず。

明治四十一年夏

譯述者識

實業振興策(獨逸之實驗)目次

第一章 緒論

本書の目的	一
近世産業發達の根本的事蹟	三
中世紀の經濟狀態及び産業制度	五
政治經濟思想の大變化	八
科業の進歩と機械の發明	一〇
産業の新組織と自由競争	一三
近世産業發達の歸著點	一五
産業國に於ける人口繁殖	一六

第二章 統一戦争前の経済状態

獨逸産業停滯の原因……………	二一
戦亂の禍害 (其一)……………	二二
戦亂の禍害 (其二)……………	二四
戦亂の禍害 (其三)……………	二五
中世紀産業制度の餘弊……………	二七
依然たる農業本位國……………	二八
獨逸農業組織の特質……………	二九
多數人民の因循偏屈……………	三二
小邦の割據と通商制限……………	三四
海陸運輸の不便……………	三五
海外の大市場なし……………	三六
度量衡制度の不備……………	三七

銀行組織の不備……………	三九
--------------	----

第三章 帝國統合後の發達

近世獨逸經濟史の三大時期……………	四四
帝國の統合と劃一政策……………	四五
帝國統合後の事業界……………	四七
人口の繁殖と職業移動……………	四八
(一) 國內市場の開發……………	
內國商業大發展の例證 (其一)……………	五〇
內國商業大發展の例證 (其二)……………	五二
內國商業大發展の例證 (其三)……………	五三
內國商業大發展の例證 (其四)……………	五四
內國商業大發展の原因……………	五六
鐵道の發達と內國商業……………	五八

鐵道國有政策の眞意……………六一

(二)外國貿易の發達

人口の増加と國運の變轉……………六六

貿易表に現はれたる事實……………六八

重要輸出入品の概勢……………七三

(三)航運業の發達

航運業の發達と二大港……………八三

各國との比較……………八五

第四章 各種産業の發達

(一)製鐵及び製鋼業

天然及び人爲の障礙……………九一

特に獨逸を利したる新發明……………九四

製鐵地方の概況……………九四

英米兩國との比較……………九六

(二)鑛業

鑛産額の増加……………一〇〇

石炭の産額及び産出地方概況……………一〇一

(三)機械製造業

獨逸製造業の長所……………一〇二

機械製造業發達の概況……………一〇五

電氣工業の進歩……………一〇八

(四)化學工業

獨逸特有の工業……………一一一

化學製造品の大宗たる染料……………一一三

人造インヂゴの發明……………一二四

化學的染料製造業者……………一二六

(五)紡織業

大規模工場以前の紡織業……………一八

紡織業の新時代……………一一

英佛米との比較……………二二

領土内に於ける棉花栽培の企圖……………二五

(六)農業

農業と政治經濟問題……………二六

獨逸農業衰退の原因……………二八

獨逸農業者の怠慢……………二九

農業附隨の製造業……………三一

(七)産業組織の發達

遲緩ながらも確實なる發達……………三二

大規模製産業の増加……………三三

カーテルの組織……………三六

産業組織の一利一害……………三八

第五章 獨逸人の實業的適能

獨逸實業發達の原因……………四一

國民の經濟的品性……………四四

資本家と勞作者……………四四

獨逸人種の特長……………四六

人口増加の影響……………四八

生活の困難と勞働の氣風……………五二

國民の遵法的精神……………五四

軍備制度の影響……………五五

一年兵役の特典……………五八

最も組織に適する人種……………五九

科學と實業との連絡……………六三

技術發明の能力……………六四

資本應用の能力……………一六五

佛國移住民の感化……………一六八

市場開拓の好手段……………一六九

英國人の保守と獨逸人の勇進……………一七三

獨逸商人の外國に關する智識……………一七四

第六章 實業教育の效果

人皆定職ありとの觀念……………一七七

定職には特殊の教育を要すとの觀念……………一七九

獨逸實業教育の特色……………一八三

普通教育の組織……………一八五

文學的中學校と實業的中學校……………一八六

普通及び實業補習學校の設備……………一八八

尋常工業學校の設備……………一九二

中等工業學校の設備……………一九三

工業大學の設備……………一九四

商業學校の現狀……………一九九

高等商業學校の設備……………二〇〇

模範的中等商業學校……………二〇三

第七章 労働者の保護

賃錢の高低と繁榮の程度……………二〇九

賃錢問題の要點……………二一二

過去廿五年間に於ける賃錢の異動……………二一三

極端なる窮民なし……………二二〇

獨逸人の訓練、節制、謹直……………二三三

満足即ち幸福の秘訣……………二三七

職工に對する周到の保護……………二三八

小額の収入を活用する特長……………二四〇

政府の公益擁護政策……………二四一

傭主と労働者の關係……………二四二

工場法規の要點……………二四四

職工組合の現狀……………二四八

強制保険の制度……………二五一

疾病保険の概要……………二五四

負傷保険の概要……………二五五

殘疾老衰保険の概要……………二五六

各種保険の効果……………二五九

職工住宅問題……………二六一

第八章 結 論

人口増加の問題……………二六五

解決の一方法として海外移住……………二六七

解決の一方法として貿易擴張……………二六八

工業國の遭逢する危險……………二六九

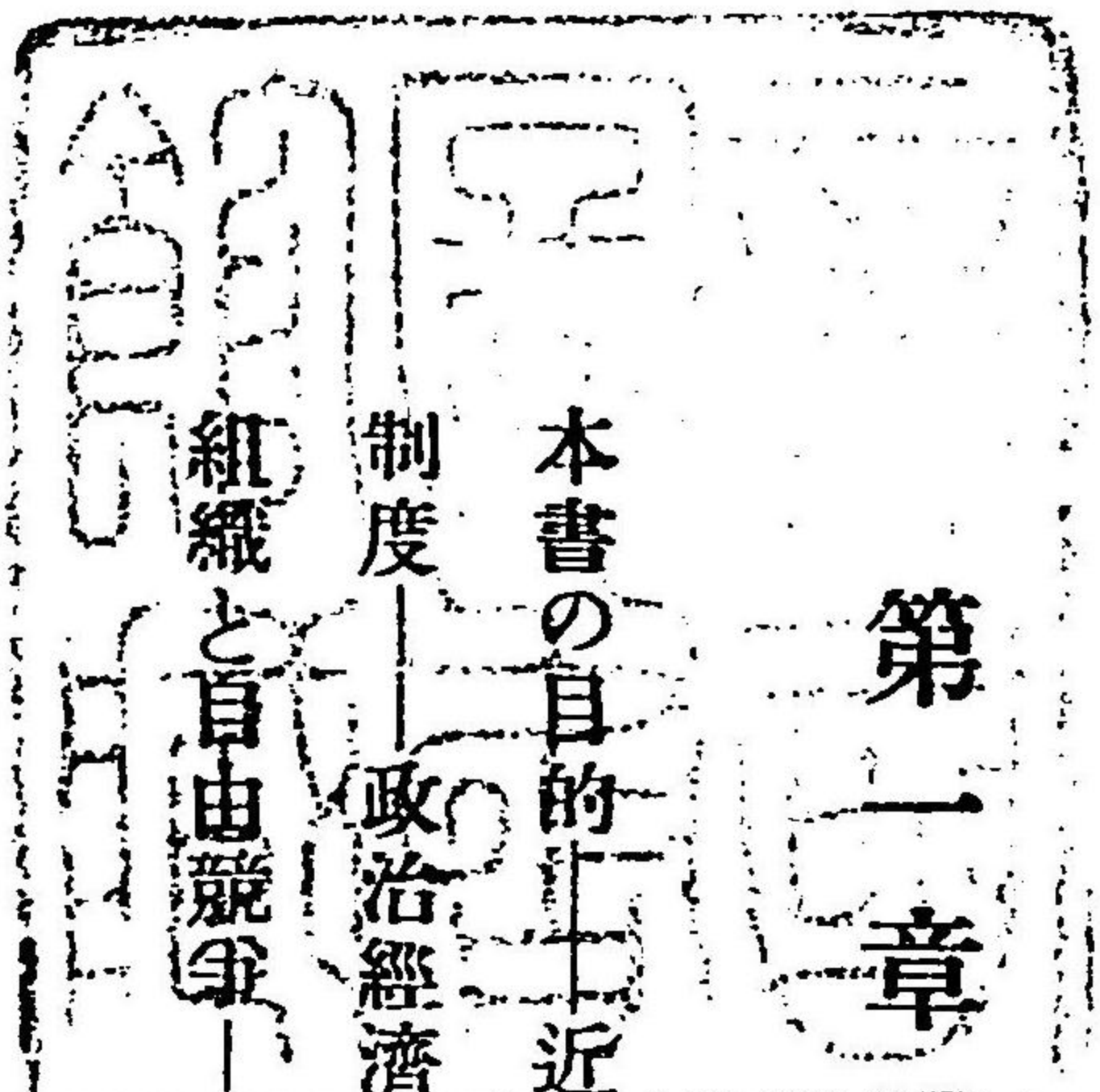
獨逸將來の繁榮如何……………二七二

將來の繁榮と人民の性格……………二七七

他國民の學ぶべき長所 (其一)……………二七九

他國民の學ぶべき長所 (其二)……………二八〇

第一章 緒論



本書の目的——近世産業發達の根本的事蹟——中世紀の經濟狀態及び産業
制度——政治經濟思想の大變化——科學の進歩と機械の發明——産業の新
組織と自由競争——近世産業發達の歸著點——産業國に於ける人口繁殖

本書の目的 本書の目的は、近時最も異數なりと目せらるゝ實業發
達の事蹟を、叙述考究するに在り。勿論北米合衆國の發達は、本書の
題目たる獨逸の發達よりも更に迅速なりき、而も獨逸人の所謂、可做
得の無限なる此國に於て、富源の宏大なる事、活潑有爲なる人口の繁

殖迅速なる事等を熟知するものは、合衆國の實業的膨脹を以て只だ當然の事とするのみ。獨逸にありては然らず。

獨逸は舊國にして、其の人民は過去數世紀間、文明國民中の貧者なりき。其の土壤は概して、隣國よりも遙かに寒瘠なり、其の銀鑛は業に久しく枯渴せり、其の國情は、内訌絶えざるが爲めに、高價なる軍備を維持せざるを得ず。其の人民は、近く五十年前に至るまで、農業を本位とし、進取の氣を有せず、退嬰を専らとするを以て名あり。加ふるに政府の組織及び社會の制度が、個人の自由を制限すること夥しきものあり。されば之を北米合衆國と對照して、不做得の國と稱し來りたるも亦怪しむに足らず。此の如くに厄介を負へる國民が、三十四十年間に於て、全く歐洲大陸に於ける競争者を壓倒し、多年世界商

業の覇權を専らにせる英國を恐怖せしめ、多くの點に於て合衆國に比肩すべき發達をなしたるは、洵に考究を價すべき現象なり。シユモラー教授述べて曰く、

『百年前には農夫及び手細工人、哲學者及び詩人を以て成り、微弱なる數百餘州に分割せられたる貧邦、今や統一せられたる強大國にして、其の繁榮、其の大生産業及び技術、其の陸海軍及び其の行政機關、其の憲法及び其の自治政體、其の國威及び其の國力は、遠く域外の具瞻する所』

此の如き顯著なる發達の由來果して如何。

近世産業發達の根本的事蹟

十九世紀に於ける各邦國の産業發達を考查すれば、三個の根本的事蹟に逢著す。即ち

第一。政治上及び經濟上の觀念に急激なる變化あり、社會制度の革新となりて發現したる事。

第二。幾多大資本の累積及び其の使用に伴ひ、生産及び交換の技術進歩したる事。

第三。文明國に於ける人口益々稠密となりたる事。

十八世紀末より十九世紀初に亘りて、中世紀以來馴致せる産業束縛制度に對する世界的反抗起る。佛國革命とアダム、スミスの富國論とは即ち此の變化を劃する二大事件なり。是より先、君主が其の領土を以て單に自家の財囊を肥やすの具となし、爲政者が經濟狀態調理の要素たる自由競争の、何物なるかを知らざりし時代に於て、政府若くは其の代表者たる同業組合は、總て經濟上の活動に干涉を加へ、産業の取締に關して煩瑣なる規則を設定するを以て、必要缺くべからざる事となせり。されど此等の制限及び禁制は、今日吾人の想像する如く、中世紀時代の人民をして苦痛を感ぜしめざりしならむ。

如何となれば、當時は畢竟、分限を主としたる時代にして、各人經濟上の能力は、其の社會上の地位と一致平衡するを要すと認定せられたればなり。而して當時に於ける産業なるもの、根本的觀念は、利得にあらず、寧ろ生活にありしを以て、各般の施設及び社會各階級の人物をして、其の地位に相當する生活を維持せしむると共に、自他互に相侵すことを防ぐか爲めに行はれ、組合制度の如きは、全く、個人の業務を保護すると同時に、其の膨脹を制止するを目的としたる也。此等の規約制限が有害と認められたるは、主人なるものが不當の利益を占め、其の専有權を擅にせんとし、又商業の増進及び生産に關する技術の發明により、産業なるものが資本的方式に移らんとしたる時に始まる。

中世紀の經濟狀態及び産業制度

資本以前の時代に於て、經濟の基礎は

即ち農業にあり、他の商工業は、農業の附隨物として營まれたるに過ぎず。農民は其の土地によりて、其の生活に必要なものを收得し、自ら生産して自ら消費したり。其の偶々必要とする製造品にして、家内の製作に俟つ能はざるは、唯だ僅かに、特殊の技巧、若くは面倒の器具を要する種類のものに過ぎず。此の時代に於て、農業以外の重要職業として存立したるは、陶工及び鍛冶等にして、彼等は其の製造品を農家に供給し、而して其の分限に應じ、農家より一定の食糧を供給せられたり。

各個の小部落、互に自ら足れりとせば、其間何等の商業なきは勿論にして、運輸の困難を排し僅かに行はるゝ交易は、少量高價のものにあらざれば則ち青藍、砂糖、香料及び生糸の如き外國品ののみ。

此の微細なる國內及び外國交易品の製造は、特種の産業を喚起し、特

に獨逸に於ては、此等の産業を市邑に集中せしめたり。商品の交換は、「市」と稱せらるゝ一定の場所及び時期に於て行はれ、而して其の大部分は織物なりしが故に、資本的方式の最初に發現したるは、紡績業及び機械業なりき。

當時の經濟状態を了解せんと欲するものは、各種の事業が、従業者の熟練以外に、資本の投入極めて少額なりし事を、堅く念頭に置きて忘るべからず。物的要素即ち資本と、人的要素即ち手巧との輕重は、恰も吾人が現時熟知する所と顛倒せり。此の如き時代に於て、人の關係が財産の關係に超越したるは當然のみ。

各種の産業に従事するものは、組合に編入せられて、職人頭の支配を受け、其の原料買入より、製品賣捌の時期、場所及び價格に至るまで、細密に規定せられたり。組合は一方に於て、原料買入の競争を防遏、

し、従業者の員数を制限し、以て生産者の利益を保護し、且つ一方に於て、製品の品質及び価格に關する法規を設け、以て購買者の利益を保護したり。組合當初の目的は畢竟公益に資するにあり。

政治經濟思想の大變化

商業の發展及び新市場の開拓は、技術の

改良と相伴ひて、組合制度を無用のものたらしめたり。人智大に進みて、仔細に天然力の秘密を窺ふや、之を驅つて自己の用に供せんとす。此の新勢力を利用せんとせば、機械なかるべからず。此に於て機械を有するもの、即ち資本家は、新勢力の制御者たり。機械及び資本の降臨によりて、各種事業の經營方法は全く大革命を來し、利益の觀念は生活の觀念に代り、資本を所有するの一事のみを以て、勞力及び熟練に匹敵するに至れり。

同業組合の規則を以て産業に加へたる制限は、手工時代に於ける生

産者の便益とする所なりき。彼等の生産力には、自ら限度あるを以て、此等の法規、時として多少の壓迫を加へざるにあらずと雖も、其保護の恩恵は壓迫の苦痛を償ふて餘あり。一方に於て個人の活動を制限するも、一方に於て他人の競争を防止し、以て生活の保證を與へたり。而も市場の擴張が生産の増殖を促し、資本の必要が収益の蓄積を強る、曩日の職人頭をして資本主に變ぜしむるに及びては、彼等の生産力は全く資本の多寡によりて左右せらるゝが故に、如何にもして、其の資本を増加せんことを慾望せざると能はず。此に於て競争を防遏する諸種の制限は、彼等に對する保護にあらずして障礙なり。即ち資本本位は産業的制限の敵となれり。

事情の推移此の如くして、而して又人民の政治思想漸く新ならんとす。人類は平等なり權利は自然なりとの革命的理論は、新經濟學の

首唱者に採用せられ、舊時の制限を打破するが爲め、資本本位の勢力に聲援を與へたり。

科學の進歩と機械の發明

天然力の征服が、製造業に於て行はれたる

が如く、運輸業に於ても行はれ、斯くて更に産業の革命を激成せり。機械の使用によりて製品は廉價となり、此の如く廉價なる機械製造品は、汽車及び汽船により、廣く各方の需要を充たすべく分配せらるるに至りて、産業の精別大に行はれ、國を殊にし、地方を殊にして、特殊の産業あり。即ち英國は世界第一の製造國及び商業國となり、十九世紀前半の經濟學者は、此の如き偏重の勢、愈々盛になるべきを豫想したり。自由貿易の學説及び此の學説に基ける立法は、恰も當時の觀想を映出したるものにして、英國は實に、各國民皆、自己の商業政策に働ふに至るべきを確信せり。而も過去五十年間の經濟史は、

此の豫期の謬れることを立證せり。國利の打算は、他國の政治家をして別種の政策を案出せしめ、一八七五年乃至一八八五年に於ける保護稅則の制定は、恰かも、獨逸、澳地利、佛蘭西、露西亞、瑞典、北米合衆國の諸國が、英國産業の偏重を防止せんが爲めに、協同の行動をなしたるが如きの觀ありき。

世界一手の製造國たらんとする願望の前途甚だ遼遠なるのみならず、今や英國は、外國の競争、特に獨逸の競争に對して、國內の市場を保護せんが爲めに、保護稅則の考究を迫られつゝあるにあらずや。

英國の人口に對する輸出貿易額の割合が、如何に減少したるかは、左記計數の示す所なり。而も此の減少が、交通の便、大に改良せられ、運輸の費、大に低減せられたるに拘はらず、一八七〇—一八七四年期より明白に割せらるゝを見よ。

英國製品輸出貿易表

年次	人口一人に對する一ヶ年平均額
一八五四	三 ^兩 一〇 ^先 〇 ^片
一八五五—一八五九	四二三
一八七〇—一八七四	七三七
一八八〇—一八八四	六二〇
一八八五—一八八九	六三七
一八九〇—一八九四	六二〇
一八九五—一八九九	五九〇
一九〇〇	六一三
一九〇二	六一三

産業界に於ける國別的偏重の勢は、各國政府の商業政策によりて阻止せられたりと雖も、一國內の從業者間に於ては、何等の支障なく進

行せり。分業は製品を低廉ならしむるに、最も重要な影響を及ぼし、下落の勢は、世界の市場に競争を試むる國にありて、特に不可抗的となれり。機械的産業の發達は、分業又分業、殆ど底止する所なきに至らしめ、個人の作業は愈々益々精別せられたり。

近世産業發達の要諦は鐵と石炭の使用にあり。此の二者は人類が、天然力の智識を産業の目的に應用するに當り、必要缺くべからざるものとなれり。斯くて製造業は、其の費用に於て著しく低減せられたるも、同時に極めて複雑にして、大に組織的となれり。製産と消費との連鎖は、間接且つ不確實となり、個人は自己の必要を製出するの力を失ひ、全く組織の中に身を没するの外なきに至れり。

産業の新組織と自由競争

最近の經濟的發達は、組織編制の趨勢浸々として止むなきを表示するものに外ならず。既に述べたる如く、近

世の資本的産業は、『自然權利』の學說に力を借りて、中世に於ける社會的制限の羈絆を脱し、自由競争は則ち物價及び經濟關係を調理して充分なりとの主義に基き、經濟的自由を獲得したり。然りと雖も、或る程度を越ゆれば、産業の組織編制なるものは、却つて自由競争を不可能事たらしめんとす。斯くて再び社會的制限の主義に復歸するにあらざれば、新に物價の調理者を發見すべき必要を喚起す。

自由競争なるものは、競争者間に、何等かの平等なくんば不可能事たり、而して平等の状態なるものは、資本が産業界に於て重要な分子となりたる以來、到底成立すべからず、又産業組織の益々發達すると共に、愈々期待し得ざるものとなれり。人類は個人として、各々其の經濟上の力量を異にするのみならず、更に團體を結合して一個の産業的單位たる活動をなし、而も團體として、其の分子たる個人以上の活

動をなすの能力を有す。近時に及びて極めて迅速の發達をなしたる資本の結合は、從來存立したる競争上の平等状態を、悉く破棄せんとするものにして、強大の資本を擁する『コルポレーション』及び『シンヂケート』は、經濟資力の微弱なるものを討滅し、斯くて強者互に生死存亡の競争を開始するに至れり。大組織を以てするに適したる産業の、過去十五年間に於ける經過、洵に此の如し。砂糖、石油、護謨、鋼鐵製造業の實例即ち是也。

近世産業發達の歸著點

市場の擴張と産業の結合とが、相伴ひて進むことを得る間は、同業の諸會社、尙ほ併立するも、生産の分量にして一旦、市場の需要に超過すれば、競争の戦闘は輒ち開始せられ、結局弱者の屈服にあらざれば、『シンヂケート』の組織に終る、『シンヂケート』の組織は、總ての會社が合併して事實上、市場を獨占すべき一

會社となりたるに外ならず。自由競争の、全く其の跡を絶つに至るや、固より偶然にあらず、經濟界の趨向、此の如き結論に到達せずんば止まざる也。此の如くにして國內の競争なきに至るや、僅かに物價の高低を調整すべきは、外國の競争にて、而も外國の競争は、概ね高率なる保護關稅若くは各國『シンデケート』間の協定によりて、無効のものとなる。此の如くにして、外國の競争も亦、物價の調整者たる能はずんば、社會は獨占的價格の規則に甘んずる乎、若くは國家の干渉に頼る乎、二者其一を撰ばんのみ。

産業國に於ける人口繁殖

十九世紀に於ける産業發達の要素として、

更に數ふべきは、産業國の人口増加が、極めて迅速なりし一事なり。文明諸國に於ける人口増加の程度と、産業發達の程度とは、畧く一致するものゝ如し。最近の統計期間に於ける、各國人口の増加率を比

較するに、左の如きものあり。

各國人口増加率比較表(百分比例)

北米合衆國	一・八九	英國	〇・九四
獨逸	一・五〇	西班牙	〇・八八
和蘭	一・二三	伊太利	〇・六九
露西亞本國	一・二二	佛蘭西	〇・二七
白耳義	一・〇一		

以上の内、露西亞及び西班牙に於ては、人口増加の程度と産業發達の程度と、甚だ平衡を失するも、其の源因蓋し政治上に在り。

人口密度の増加が産業發達の原因なるや、將た又結果たるやは、之を論定する難し。産業繁榮の期節が、人口増加を伴ふよりして見れば、後者即ち前者の結果なりと云ふを得べきも、限りある國內の富源に

對し、人口の増殖殆ど限りなきが故に、其の住民を驅つて、生産の量を増さんが爲めに、技術上の改良を工夫せしめ、若くは他國民の發明を採用するに躊躇せざらしむるも、亦た争ふべからざる事實なり。例へば鐵道の如き、人口の稀薄なる地方よりも、稠密なる地方に敷設せらるゝこと多く、而して鐵道の敷設は直ちに、他の産業を増加せしむる原因たり。

故に人口の増殖は、産業進歩の原因にして、又其の結果なりと云ふべし。産業隆盛の時期來るや、之に伴ふて、常に人口出産率の増加あり、而して國內の富源が人口の増殖によりて壓迫せらるゝや、必ず産業の奮興を促し、大に技術の進歩を來さずんばあらず。

然りと雖も、或る場合に於て、人口の増殖は勞力の供給を増し、其の賃錢を減し、以て機械力の應用を阻止すること、恰かも五十年前、獨

逸の紡績業に於けるが如きものなしとせず。或は又甚だしき小地主制度行はれ、耕作の方法極めて聚約となれば、農業機械の使用を抑制することあり。

以上、熟知の事實を絮説するに過ぎずと雖も、亦以て技術の改良と資本の組織が、産業發達の要素たること、及び人口増殖の影響を舉明するに足るべし。而して又以上の絮説は、獨逸産業進歩の一斑を測度すべき梗概にして、此の進歩が時としては全く阻止せられ、又時としては異常の速度を以て、飛躍したる所以を了解するの一助たらむ。

第二章 統一戦争前の経済状態

獨逸産業停滯の源因——戦亂の禍害其一——戦亂の禍害其二——戦亂の禍害其三——中世紀産業制度の餘弊——依然たる農業本位國——獨逸農業組織の特質——多數人民の因循偏屈——小邦の割據と通商制限——海陸運輸の不便——海外の大市場無し——度量衡制度の不備——銀行組織の不備

獨逸産業停滯の源因

英國が其の鵬翼を張りて、經濟界の空野に翱翔しつゝありし間に、獨逸の發展は極めて遅々たりき。而も最近廿五年間、獨逸産業の迅速なる發達に徴すれば、其の停滯の時代、尙ほ潜

勢力を保持したること、疑ふべからざるが故に、輓近に至るまで、此國の成長を阻害したる原因、果して何ものなりしかを討尋するは、固より興味あり、若し之を討尋し得ば、障礙除去せられたる後の、大進歩大發展を説明する、自ら容易ならん。

戦亂の禍害其一

案ずるに獨逸をして、進歩に後れしめたる最大の原因は、歐洲中原に於ける地位が、此國をして、大陸戰亂の修羅場たらしめたるにあり。『三十年戰爭』以前に於て、獨逸は比較的繁榮を樂しみたりしも、長期の大戰爭は全く各種の産業的活動を撲滅し、人口は殆ど従前の二分一に減し、而して二分一の残留人口すらも、其の大半は、生産的職業の訓練を受くるに堪えざる老幼者にあらざれば、戰場に馳驅すること久しくして、全く常軌の産業に適せざるもの、みなりき。除隊兵士は幾千となく、國中を彷徨して、食を乞ひ、農民

を掠め、耕耘及び運搬の用に供せらるゝ馬匹、極めて少なく、耕すには犁を用ゆる能はずして、僅かに鋤のみを用ゐ、運ぶには貨車を用ゆる能はずして、僅かに手車を用ゐたり。

利息は一割乃至三割(和蘭は當時三分乃至六分)にして地價は四分一に低落し、家屋の兵燹に罹りたるもの其數を知らず。當時重要な産業たりし、醸造業、搾酒業、製紙業、印刷業、毛織物業、リンネル製造業の如き、全く廢滅に歸するにあらざれば、僅かに其の命脈を保つに過ぎざりき。

節儉及び勤勉は以て生活を支持するに足らず、欺計、暴力、騙詐、到る處に行はれ、小邦及び私領、互に關稅の牆壁を築きて孤立し、群小君主皆な其の人民を虐けて、外聞を張るに汲々たりき。

獨逸の衰退、此の如く其極に達したる時に於て、英國は其の全力を盡

して、外國貿易を擴張しつゝありき。クロムウエル治世の航海條例、及び一六五〇年より一七一三年に亘り、和蘭に對して獲たる勝利は、英國をして和蘭商船の大部分を奪取して、自己の用となし、以て其の殖民地貿易を獨占せしめたり。次で十八世紀に迨び、佛國を打破して、盛に其の殖民領土を擴張し、以て後年、此等大市場の需要により、紡績及び製鐵の大工業を振興する地歩を作成せり。而して又商業の擴張は、資本の集積を伴ひ、資本の集積は、機械の時代到著するに際し、英國をして、資本的大生産の利益を、十二分に發揮するを得せしめたり。

戰亂の禍害其二

次で獨逸に、「七年戦争」の厄運あり。但し此の戦争は、其の當座、大に商工業を阻害したるが如きも、普魯西國をして、群小國の上に一頭地を抽てしめたる結果に鑑みれば、到頭産業の進

歩に資する所ありしと云ふを妨げず。即ち普魯西國の勃興は、次の世紀に於て、先づ關稅同盟の設立となり、次で北獨逸聯合の組織となり、最後に獨逸帝國の統合となりたれば也。若し澳地利國にして、依然聯邦の牛耳を執りつゝありしならば、十九世紀に於ける獨逸の産業史は、其の政治史と共に、大に趣を異にしたりしならむ。

戰亂の禍害其三

次で又ナポレオン戦争の大厄運あり。此の戦争は、所謂大陸封鎖の一現象として、紡織業の如き、特種の工業に、臨時の繁榮を齎したることありと雖も、大體に於て、殆ど獨逸全土の産業及び殷富を破壊し了りたりき。此の戦争が、獨逸を貧弱ならしめたることの如何に甚しかりしかは、其の恢復に至るまで、極めて長き年月を要したるによりて知るを得べし、少くとも十九世紀の中葉に至るまで、資本の缺乏は、獨逸に於ける産業發達の最大障礙にして、

都會に於ても、村落に於ても、民衆常に窮乏を訴へ、飢饉の慘狀を見ることも亦稀ならざりき。シユモラー教授曰く、「一八三〇年に於ける人民の經濟狀態は、一八〇二年に於けるよりも、更に劣れりと云ふも、決して誣言にあらず」と。而して一八三〇年は、平和恢復後、既に十五年を経過したりし也。而も自由の戦争は、其の當座、經濟上の大損害を蒙らせしと雖も、政治的良果を齎らしたること少しとせず、即ち獨逸統一の觀念は、此の戦争によりて、著しく刺激せられ、獨立小邦の數は、百八十より減して三十九となれり。

關稅同盟の設立及び人口の増加は、一八五〇年以前に於て、既に資本的産業發達の爲めに地歩を備へたりと雖も、當時尙ほ企業の精神、頗る缺如たるものあり。物價は總て下落し、其の下落せざるものも騰昂の運に向ふ能はず、通貨は輸入超過の爲めに海外に流出し、國內は

貨幣大缺乏の爲めに苦しむたり。當時英佛兩國よりの競争、甚だ激烈にして、獨逸國內の産業は、殆ど發達の機會を有せざりし也。

爾後、普魯西國の遭逢せる戦争は、總て短期なりしのみならず、畢竟獨逸帝國の統一に向つて、歩を進めたるものなりしが故に、必ずしも産業の發達に不利なりしと云ふべからず。

中世紀産業制度の餘弊

戦争の禍害、實に此の如し。更に獨逸をして、

時勢の進歩に後れしめたる他の原因は、中世紀の産業主義が、農業に於ても、各種工業に於ても、久しく其の馴致の勢を保持したるにあり。即ち産業なるものは、主として生産者直接の需要を充たすに止まり、個人をして、其の生活に必要な外、多量の生産をなさしむるは、階級制度に不利なりと認められたるのみならず、各小邦の政府は、極めて嚴密なる監督を各種の産業に加へ、一足の靴すらも其の承

認なくしては製出する能はず、且つ各君主は領内の産業を以て、其の唯一財源となし、干渉制限知らざる處なかりしが故に、面倒なる免許、差別、特權の制度となり、従つて外國の技能を招致するの途を杜塞したり。

依然たる農業本位國

十九世紀の前半に於て、獨逸は依然として農業本位なりき。一八〇四年の概算によれば、普魯西人口の七割三分は村落に住し、二割七分は城下に住したりと。村落に住したる七割三分は、固より全部農民と見做すべく、而して城下に住したる二割七分とも、農民と見做し得べきもの少なからず。統計學者デーテリーチの說によれば、城下住民の大半も、土地の耕作を其の主業とせりと云ふ。されば十九世紀の初期に於て、獨逸人口の八割以上は、農民なりしと斷言するも大差なかるべし。

獨逸の地方は、元來農業に使せず、農業を以て産業の基礎としたる時代に於て、獨逸は其の隣國に比し、不利の地に立ちたりしなり。縦令戰役の爲め、妨げられざりしとするも、農作の剩餘より來るべき、資本の集積は、極めて遅々たるや論を俟たず。且夫れ、獨逸農業の方式は、産業組織の全體に亘りて、重要な關係を有し、其の十九世紀に於ける停滯の因たること多きを以て、茲に之を詳説するの價值なくんばあらず。

獨逸農業組織の特質

往時獨逸に於て行はれたる農業は、組合即ち「マルク」の組織を以てするを普通とせり。「マルク」とは本來、一村に住居し、周圍の土地を所有し耕作する三十戸乃至四十戸の組合にして、全財産に對する各戸の持分は、三様の方式による。即ち(第一)住家、農舍、庭園及び家畜は個人財産として各別に所有す、(第二)可

耕地は之を大地區に分ち、各區毎に各家の持分あり、其の面積は二頭の牛を以て半日に耕し得る程度を以て普通とす。毎戸の持分、多きは百箇所に散布せらるゝ事あり。(第三)可耕地の外、「マルク」内に在る牧地及び山林に對しては、組合員各々用益の權利を有す。各戸の所有を平等ならしめんが爲めに、此の如く全「マルク」内に、所有地を散布せしむる組織は、自ら一種の制規を必要とせり。例せば、何人も他人の所有地を經過せざれば、自己の所有地に入る能はざるが故に(道路、畦の設備なし)、各自相妨げざるを期せんには、同種の作物を同時に播種し、同時に收穫せざるべからず。而して輪作及び施肥の智識なきが爲めに、三年日毎に植付を休止せざるを得ざりき。

歲月の經過と共に、此の古風なる組織は漸次推移して、農夫は其の附近なる大地主に隸屬するに至れり。特に東部普魯西に於ては、大地

主の權利、甚だ強大となり、大地主に對する農夫の義務關係は、農夫が其の時間を割くに最も不便なる時期、即ち播種若くは收穫の時期に於て、其の勞力若くは牛馬を以てする強制的服役となれり。而して此の如き義務の存續する限り、農夫は其の土地を去ること能はず、又自ら其の羈絆を脱すると能はざるが故に、子孫相傳へて、遂に其の土地に緊縛せられたる農僕の状態となり、十九世紀に至るまで、此種の奴隸的束縛は繼續せり。斯くて普魯西に於ては、一八〇七年、一八一一年及び一八一六年の諸法令により、始めて解放の手續あることを得たり。此の改革は英國及び佛國が早く既に遂行したる所にして、獨逸の之を採擇するに甚だ遲緩なりし一事、即ち産業の進歩を阻止したる一原因なり。

耕作の規一を必要としたる土地所有の方法は、一八二〇年普魯西の

法律が、個人の所有地を一箇所に集合することを許容し、依つて以て其の所有者をして、耕耘の新方法、輪作其他の新案を随意に採用するを得せしむるに至るまで、依然として變更せられざりき。而も此等の改革は大地主の正面より反對したる所にして、其の漸く實施せられたるは、解放農僕に重大の負擔を加へ、依つて以て實行を遅からしむる、幾多の讓歩を加味したるが爲めのみ。

多數人民の因循偏屈

中世紀の制度は、此の如く、十九世紀の初期に於て、撤廢せられたりと雖も、此の制度の下に凝結したる農作の方式、及び人民の性格は、爾後尙ほ久しきに亘りて持續せられたり。耕作の規一を必要としたる土地所有の方法は、新案發明の敵にして、組合員の全數が新方法の採用に同意せざる限り、舊來の慣行に對して、如何なる變更をも加ふる能はず、如何なる熱心耐苦の新案發明者も

此の障礙を排除する能はざるなり。農民は皆、其の教へられたる所を守るのみにして、他の方法を考量することもなく、改良を試みんとするの欲望もなく、新案發明者が其の勞苦を以て購ひ得るものは、只だ嘲笑あるのみ。

保守主義が、農業組織により數世紀間養成せられ、且つ人民の多數に浸潤すること此の如くなれば、遂に一般普通の性癖となり、多年慣行の制度全く廢類に歸したる後も、尙ほ永く存留せずんばあらず。獨逸の農夫は、其の及ぶ限り、舊慣を墨守したるも、遂に人口増加の影響及び工業勃興の勢力に抵抗する能はず。土地は益々高價となりて、古風なる耕作方法に拘泥するを許さず、かくて新方法を應用する能はざる農民は、其の所有地を棄て、傭夫と伍するの止むなきに至れり。舊組織保持せられて農民皆其の土地の生産を以て、自ら養ふに

足り、市場に於ける賣買殆ど行はれざりし限りは、多少の製造工業ありと雖も、其の製品に對する、國內の販路は極めて狹隘ならざるを得ず。往時の耕作組織によりて養成せられたる、獨逸農民の保守主義は、實に十九世紀の三分二に當る期間を遡して、産業の進歩發達を抑留したる、一大原因たるなり。

小邦の割據と通商制度

商業及び運輸に關する各種の制限も亦、獨逸

に於ける經濟組織及び制度の革新を阻止する所以なりき。一八三三年の關稅同盟成立に至るまで、獨逸内の諸邦國は、其の通商關係に於て、各自恰かも外國の如くなりしのみならず、普魯西國內に於てさへも、一八一八年の頃に至るまで、州より州への貨物輸送に對し種々の課税をなしたりき。フリードリヒ、リストは此の如き國情を形容して、恰かも人體の四肢緊縛せられ、血液の循環、一方より他方に及ば

ざるものに似たりと云へり。

海陸運輸の不便

大規模の生産に缺くべからざる要件は、其の製品を吞吐するに足るべき大市場の存在にして、此の如き市場の有無は即ち英獨兩國に於ける、産業發達の懸隔を説明すべき有力の資料なり。各種の地方的産業が、頼つて以て存立すべき市場の廣狹は、概して運輸の便否如何によりて定めらる。島國としての英國は、其の海岸線長く、其の港灣多く、島内各地及び外國に對する運輸の廉價なることに就きて、陸國たる獨逸と全く其趣を異にせり。英國に於ては、海岸を距ると七十五哩以上の地點なく、國內孰れの地點も、八十有餘を以て算せらるゝ港灣に達するの道、甚だ遠からず。之に反して、獨逸の短かき海岸線は、容積の比較的、小なる貨物を除き、國內並に海外の通商に便益を與ふると極めて少なく、而して此の通商さへ、二三の

港灣及び近接の國とのみに限られたり。漢堡及びブレメンの二大港ありと雖も、關稅同盟外に超然たりしが故に、其の地位は獨逸國內にあるも、外國貿易港と何等の撰ぶ所なく、而して二港のスカンデナヴィヤ及び露西亞に對する商業は、獨逸内地の諸邦に對するよりも、遙かに重要なりき。此外、河川溝渠の便ありて、車馬よりも廉價なる運輸の便益を、或る地方に與へざりしにあらずと雖も、要するに鐵道時代以前に於て、運輸の缺乏は、商業上の有害なる禁制と相俟ち、獨逸産業の進歩發達を阻止するに與りて大に力ありしなり。

海外の大市場無し

英國が夙に産業の大發展をなし得たるは、全く其の製品の爲めに廣大なる市場を各地に開拓したる商業の賜に外ならず。更に適切に之を云へば、英國の産業は英國人が移住し、英國品を嗜好する幾多の殖民地に、廣大の市場を有する商業により育成せ

られしものに外ならず。然るに獨逸の製造業者は、其の製品に對して此の如き市場を有せず。其の内國市場は、稀に河川の運輸により擴張せらるゝのみにして、極めて狹隘の區域に限られたるのみならず、船舶の航行は組合組織の制規により、一定の地點以外に及ぶこと能はずして、屢々貨物の積卸をなさゝるべからず、之に加へて苛重なる特許税の課せらるゝあり、運輸の失費此の如く莫大にして、到底市場擴張の方便たる能はざりき。既に殖民地なし、航運業なし、海外商業の發展策なきや當然のみ、製造業者にして、遠く海外に其の製品を賣らんと欲せば、絶大の困難を排除せざるべからざる也。

度量衡貨幣制度の不備

獨逸商工業の發達を阻害したる事情として、更に數ふべきは、各聯邦内の度量衡制度、及び貨幣制度の不統一なり。關稅同盟成立して、各邦間の關稅撤去せらるゝや、度量衡及び貨

幣制度の統一を期し、之に關する條項を設定したりしも、其の實行せられたるは、北獨逸聯合の成立したる後にして、一八六八年に至り「メートル」式漸く制定せられ、一八七二年に至り始めて施行せられたり。

一八三四年より一八六七年に亘りて存立したる關稅同盟なるものも、固より充分なる經濟的統一體にあらず。産業、特許、倉庫、間接稅其他の要件に關して、立法の整一を缺き、且つ新法規の制定若くは舊法規の改正、共に同盟に加入したる全員の一致同意を要したるが爲めに、最小者の反對も以て他の協同を破棄するを得たり。

以上列擧したる如き商業上の障礙は、大規模工場製産の發達に不利なること最も甚しく、以て手工組織の産業が、十九世紀の後期に至るまで、獨逸に存留したる所以を説明するに足る。而して此等の障礙

撤廢せられ、且つ國內の市場が鐵道によりて開かるゝや、英國の諸産業者は、大規模の製造によりて、著るしく製品の價格を低廉ならしめ、獨逸の事業家は激甚なる競争を以てするにあらざれば、其の地歩を定むる能はざりき。

銀行組織の不備

産業の組織を確立し、手工的生産より資本的工場的生産に轉移するに、最も必要なる條件は、確實有効なる貨幣制度及び銀行組織なり。近世の生産組織は、莫大なる資本の集積を必要とするのみならず、事業家をして此の資本を活用せしむるの方法、即ち換言すれば信用の組織を必要ならしむ。一人にして發明及び企業的能力に秀で、兼ねて巨額の資力を有するもの稀なり。企業と伴はざる資本、若くは資本を有せざる企業は、恰も分開せられたる剪刀の一片なるが故に、何等かの方法を以て、兩者を結合するにあらざれば、

以て産業に資すべからず。社會の各方面より、廣く零碎の貯蓄を集積し、企業家の用に供するは、即ち銀行なるものゝ作用にして、産業の組織と銀行の發達とは、相離るべからざる現象たるなり。

獨逸が、其の銀行制度に關し、英國及び米國に劣りたると、如何に甚だしかりしかは、左の略表によりて、其の概畧を知るに足る。但し此の數字は、ムルホールの計算にして、單に資本金額、發行制限、及び預金額を累計し、以て銀行の力を測定するは、皮相の觀測、何等の實用に適せずと雖も、而も銀行の利用に關し、獨逸と英米兩國との間に、甚だ大なる懸隔ありしことを示すに足るべし。

英、米、獨銀行力比較表

英國	一八四〇年	一八七〇年	一八八八—一八九〇年
獨逸	一三三、〇〇〇、〇〇〇 ^兩	七二〇、〇〇〇、〇〇〇 ^兩	九一〇、〇〇〇、〇〇〇 ^兩

獨逸	一二、〇〇〇、〇〇〇	四九、〇〇〇、〇〇〇	二三一、〇〇〇、〇〇〇
米國	九〇、〇〇〇、〇〇〇	四四〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇三〇、〇〇〇、〇〇〇

近世の産業發達に關し、最も顯著なる一點は、鐵道の敷設、船舶の建造、機械の製造、其他の目的に對し、鐵及び鋼を使用する事なり。故に生鐵の消費高は、以て一國の工業狀態如何を判定すべき良好の指數たり。此の尺度を以てするも、獨逸は一八八〇年の頃に至るまで、遙かに英米兩國の下位にありしを見る。

英、米、獨生鐵消費高比較表(人口一人平均)

英國	一八五〇年	一八六〇年	一八七〇年	一八八〇年
米國	八五 ^{キログラム}	一一一・九 ^{キログラム}	一七二・七 ^{キログラム}	一七七・八 ^{キログラム}
獨逸	三〇	三一	五一	八九
獨逸	一〇・六	一八・六	三八・八	五九・八

第三章 帝國統合後の發達

近世獨逸經濟史の三大時期——帝國の統合と劃一政策——帝國統合後の事業界——人口の繁殖と職業移動

(一) 國內市場の開發

內國商業大發展の例證其一——內國商業大發展の例證其二——內國商業大發展の例證其三——內國商業大發展の例證其四——內國商業大發展の原因——鐵道の發達と內國商業——鐵道國有政策の眞意

(二) 外國貿易の發達

人口の増加と國運の變轉——貿易表に現はれたる事實——事要輸出入品の

(三) 航運業の發達

航運業の發達と二大港——各國との比較

近世獨逸經濟史の三大時期

十九世紀年間の獨逸經濟史は、之を三期に分割することを得べし。第一期は十八世紀年間より一八三三年の關稅同盟設立に亘り、第二期は關稅同盟の設立より統一帝國の建設に及び、第三期は其後現時に至るまでとす。

第一期に於ける顯著の事件は、農民が法制の賜によりて、封建的奴僕の状態を脱したる事、及び商工業に關して、少くとも一部分の自由主義實行せられたる事なり。而して此等の事件は、孰れも社會制度及び經濟組織の更新を誘致する所以に外ならず。

第二期に至りて、吾人の看取する要點は、獨逸國內に於ける關稅の牆壁撤廢せられ、且つ鐵道の利便が、一般に採用せらるゝに伴ひ、市場の範圍大に擴張せられ、此の結果として資本的生產組織を可能事たらしめたるにあり。以上二期間に於ける經濟上の發達は、前章に概説したるが如くにして、今や歩を進めて、考究の主題たる第二期に到著せり。

帝國の統合と劃一政策

第三期に至り、資本的生產及び商業の組織は、迅速なる發達をなし、農業に代りて、國民經濟の首位を占め、斯くて獨逸は、獨逸人の所謂、農業國より工業國に變じたり、此間に於て、産業は組織せられ、集中せられ、且つ飛躍の勢を以て進歩し、遂に『カテール』及び『シンチケート』の發現となれり。

獨逸國民は一八七一年一月十八日、ヴェルサイユに於ける宣言によ

りて、遂に全く統合せられ、而して豊饒なる二州の割譲と、五億法償金の支拂とにより、戦争の失費を填補し、且つ産業を振興すべき資本を供給せられたり。アルサス及びローレーンの領有は、啻に二州の産業を獨逸の財産に加へたるのみならず、獨逸の製造業者をして、其の國內に於ける新競争者に對抗する唯一の方法として、自ら標準を引上ぐるの策に出でしめたるにより、大に帝國の産業力を増進したりき。而も獨逸の爲めに、最大の利益を齎したるは、獨逸をして産業上、並に軍備上の世界的勢力たらしめんが爲め、ビスマルクが實行したる劃一政策なり。某著作家云へるあり、

『統一帝國の建設が經濟上の最重要事件たるや、固より絮説を要せず。帝國の建設は、單に關稅同盟の擴張に止まらず、國民の經濟的生命に關する、各般の場合に亘りて、劃一立法の原因となり、普ねく國內を通じて經濟的利益の支柱となれり。今や初めて、

關稅及び通商政策以上の、劃一的産業政策を行ひ得るに至れり。』

帝國統合後の事業界

戰局僅かに收まるや、驚くべき事業勃興の時代は來れり。一八五一年より一八七〇年に至るまで、數十年を通して、新會社の設立せられたる數、僅かに二百九十五、其の資本金額六億弗に過ぎざりしに、一八七〇年より一八七四年に至る四年間の新會社設立數は八百五十七、其の資本金額は八億弗を算せり。大景氣の後には、之に伴ふ大瓦落あり、大瓦落の影響は爾後十年乃至十五年に亘り、近く一八九〇年に至るまで、此國をして、最近膨脹の端緒を啓かしむるに至らざりき。降つて、一九〇〇年に迫り、更に恐慌來襲の兆あり、製鐵業、採炭業及び機械製造業等を脅やかしたるも、只だ一時の發作に止まり、今や獨逸の産業は再び隆運に乗しつゝある也。一八七四年の大瓦落より一八九〇年の回復に至るまでは、輓近の大

發展に對する準備の時期と見做すを得べし。此の時期に於て、産業の大勃興をなすべき素地は作成せられ、只だ企業的新精神の發現を待つのみとなれり。而して輓近の大發展は特に、電氣工業及び化學工業により激成せられたり。點燈及び運輸に於ける電氣の應用、及び工場に於ける動力として電氣の使用は、各種の機械に對する需要を喚起し、又間接に他の製品に對する需要を喚起し、斯くて一般産業の發達を促かせり。

人口の繁殖と職業の移動 一八八二年より一八九五年に至る間に、獨逸の農業と他の産業とが、如何に隆替したるかは、其の從業人口百分比表によりて知るとを得べし。

獨逸人口從業別比較表

	一八八二年	一八九五年
農業	四二・五 <small>百分</small>	三五・七 <small>百分</small>
製造業及建築業	三五・五	三九・一二
商業	一〇・〇	一一・五二

一八九五年以後の職業移動は、前表に比して更に迅速なりしもの、如し。要するに十九世紀の初期に於て、農民の數は少くとも、全人口の四分三を占めたりしもの、其の末期に於ては僅かに三分一に減少したり。

領域の増減を別として、獨逸帝國內の人口は、十九世紀間に於て、左の如き増加をなせり。

獨逸領域内人口増加表

一八一六年	二四、八三三、〇〇〇
一八五〇年	三五、三一二、〇〇〇

一八七〇年
一九〇四年

四〇、八〇五、〇〇〇
五六、六一四、〇〇〇

國內の人口が、村落より都會に移動するは、其國が農業國より工業國に轉することを指示する一標徴なり。一八七一年以來、獨逸國內人口移動の趨勢左の如し。

獨逸都鄙別人口比較表

	一八七一年	一九〇〇年
都會人口	百分之三六	百分之五四
村落人口	六四	四六

(二) 國內市場の開發

內國商業大發展の例證其一

最近年間に於ける獨逸の膨脹を論ずるも

の、主として其の外國貿易に張膽明目せずんばならず。而も絶好の「オーソリチー」たるソムバート教授の如きは云へるあり、「最近十年間の進歩たる、少くとも獨逸工業に取りては、其の總量に比して、外國貿易に屬する分量の減少を示せり。」換言すれば、內國商業は外國貿易よりも、更に迅速の發展をなしたるの謂なり。統計家の算出したる所によれば、一八八二年より一八九五年に至る間に於て、製産の増加は四割乃至五割に達す。而して同年間に於ける、原料及び製造品の輸出入平均年額左の如し、

原料及製造品輸出入價額比較表

	一八八一年—一八八三年平均	一九〇四年—一九〇六年平均
原料品	九三三、七〇〇、〇〇〇 _{馬克}	三、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇 _{馬克}
輸入製造品	七〇、六〇〇、〇〇〇	一、二二一、八〇〇、〇〇〇

合計	四、一二一、八〇〇、〇〇〇	一、〇〇四、三〇〇、〇〇〇
原料品	八二七、四〇〇、〇〇〇	一一一、四〇〇、〇〇〇
輸出製造品	二、四三九、八〇〇、〇〇〇	二三四、三〇〇、〇〇〇
合計	三、二六七、二〇〇、〇〇〇	一三二、九〇〇、〇〇〇

以上の統計によれば一八八二年より一八九五年に至るまで、輸出全額の増加は四分四厘にして、製造品のみを比較するも一割を超えず、即ち輸出貿易(四分四厘乃至一割)の發達は製産増加の割合(四割乃至五割)よりも遙かに低きなり。

内國商業大發展の例證其二

製鐵製鋼業は單に近時最も顯著の發展を

なしたるのみならず、電氣工業の如く、鋼鐵を原料とする幾多工業の發達を來したる基礎と見做さる。獨逸の生鐵產出額は、一八八〇年に於ける三百萬噸より、一九〇〇年の八百五十萬噸に増加し、而して

一八八〇年に於ては、輸入に對する輸出の超過、產出總額の二割九分三厘に當りしも、一九〇〇年に於ては、僅かに七分三厘に過ぎず。此の事實は、五百五十萬噸の巨額を以て算すべき產出額の増加が、殆ど總て國內の需要に應じたるものなることを指示する所以にあらずや。

内國商業大發展の例證其三

獨逸は其の化學工業によりて、大に外國

市場を開拓したりと稱せらる。一八八二年より一八九五年に至るまでの間に於て、化學製造品の輸出は、其の重量に於て、三割八分二厘を増加したり。製産總額の増加、果して幾何なるやは、統計不備の故を以て、精確なる算定をなす能はざるも、從業人員の増加によりて、産業發達の程度を推知し難きにあらず。前記十三年間に於て、化學工業の從業人員は六割五厘の増加を示し、而して各種の改良及び發

明は、従業者毎一人の製産力を増加したることを疑ふべからざるが故に、製産總額の増加、尠くとも従業人員の増加と同率なるべしと推定するを得べし。果して然らば化學工業の實例も亦、國內市場の發達が海外市場の發達よりも迅速なりしことを指示する所以なり。

内國商業大發展の例證其四

更に又、其の價額に於て、輸出の首位を占むる羊毛製品及び綿製品に就きて之を觀るに、製産の増加甚だ顯著なると同時に、製産總額に對する輸出額の割合、漸次減少すること、左表に示す所の如し、

綿製品製産額及輸出額比較表

製産額	輸出額	製産額に對する輸出額 <small>(百分)</small>
一八三六—四〇年平均	一七、八九七	四、四六〇
一八五一—五五年平均	三四、九六三	七、二八三

一八五六—六一年平均	四九、九八七	九、一五七	一八・三
一八八〇年	八四、〇〇〇	二一、三〇〇	二五・六
一八九七—九九年平均	一八九、四五〇	三五、三〇〇	一八・六

羊毛製品製産額及輸出額比較表

毛絲使用額	製品輸出額	毛絲使用額に對する製品輸出額 <small>(百分)</small>	
一八四〇年	二一、〇〇〇	三、二五〇	一五・五
一八六〇—六一年	四二、〇〇〇	一一、五〇〇	二九・八
一八八〇年	六六、〇〇〇	二一、八〇〇	三三
一九〇〇年	一五六、〇〇〇	二九、三〇〇	一八・七

重要輸出品に關する以上の統計は、以て國內商業と外國貿易との輕重を説明し得て餘あるべし。獨逸の産業進歩は、畢竟するに、全國を擧げての經濟的膨脹なり。試みに問はん、國內製産品に對する、此の如き大需要は果して何處の方面より來りたる乎。一八七〇年の帝國

領域内に包容したる人口に對し、一九〇四年の人口が、約二千萬の増加をなしたることは、需要増加の直接原因として數ふべきものならむ。而も更に大なる需要を喚起したる原因は、一般人民の消費力増加にあり。製造及び運輸に關する技術的進歩は、物價を低廉ならしめ、物價の低廉は需要を増進し、需要の増進は大規模の製産を誘起し、大規模の製産は更に製産費用を減少し、物價をして愈々低廉ならしめたり。而して此の如き原因と結果との循環に於て、最初の原因たる技術的進歩は、全く英國より借り來りたるものにして、紡織機械の如き、製鐵製鋼法の如き、蒸汽機關及び鐵道の如き、總て其の最初は英國式を模倣したるに過ぎず。

内國商業大發展の原因

獨逸が外國市場に其の地歩を占め得たる所以のものは、全く英國の商業品を模倣し、其の品質の劣等なる代り

に、廉價を以て供給し得たるが爲めに外ならず。而も品質を犠牲に供したる廉價は、即ち國內に於ける大市場の發展を來したる所以なり。三十年前の獨逸は貧國なり、現時と雖も、獨逸人は、英人若くは米人に比して遙かに節儉なる購買者にして、節儉は實に獨逸人の慣性たるなり。大産業が人民の經濟的生活に及ぼしたる變化も亦國內市場發展の一原因たり。手工的産業の時代に於ては、生活の必要及び快樂を充たさんが爲めに、市場に赴きて購ふこと甚だ稀なり。農民の食糧は自ら收穫したる所、衣服其他必要品は、自ら産出し得たる原料を以て、家族の製作したる所にして、他人の助力を要する場合に於ても、報酬は常に製産物を以て支拂はれ、購買者としても、販賣者としても、市場に赴くこと極めて稀なりき。手工者の業務も亦、多くは同一の慣行

を繰返し、注文者自ら原料を供給して、只だ勞作賃錢のみを支拂ひ、而して此の賃錢さへ、往々現金を以てせず物品を以てしたりき。人民の保守的氣風此の如し、工場製品に對する國內市場の發展、遅々たりしは固より當然にして、物價の低廉なること異常の度に至るや、人民をして初めて市場の便益に頼らしめたり。

鐵道の發達と内國商業

物價下落の一大要件は、運輸の低廉にあり。

鐵道の敷設は、河川及び溝渠の便ある、僅少の地方を除くの外、國內市場の開發に必要な先驅者なり。十九世紀の中葉に於ける、獨逸の保守退嬰的狀態を説明するに、最も明白なる例證は、其の鐵道を以て産業發達に資するの甚だ遅鈍なりし一事なりとす。試みに獨逸鐵道哩數の増加を、英、米兩國と比較すれば左の如し。

獨、英、米國鐵道延長比較表

	一八四〇年	一八五〇年	一八六〇年	一八七〇年	一八八七年	一九〇三年
英國	八三八	六、六二〇	一〇、四三〇	一五、五四〇	一九、八一〇	二二、一五二
獨逸	三四一	三、六四〇	六、九八〇	一一、七三〇	二四、二七〇	三二、四七七
米國	二、八二〇	九、〇二〇	三〇、六三〇	五三、四〇〇	一五六、〇八〇	一九八、七六八

英國島内の面積狭小なる事、及び其の沿岸航運の夙に行はれ、鐵道は之と競争すべき地位にありし事とを併せ考ふれば、鐵道運輸の發達に關し、此國と獨逸との差異更に著大なることを知るに足らむ。

獨逸聯邦の創建以前に於ては、二三百哩の鐵道を敷設するにも、十數小國の同意を要したるが故に、水陸共に、殆ど運輸の方法を改良するに由なかりき。而も運輸の便は、孰れの邦國に於ても、産業發達の基礎にして、關稅同盟の設立及び度量衡貨幣制度の統一が、獨逸の産業進歩に必要なりしと同じく、運輸組織の統一最も必要なりしなり。

一八六五年より一八八〇年に至る十五年間に於て、獨逸の鐵道哩數が八、六八七哩より二〇、六九〇哩に増加し、即ち十四割の延長をなしたるは、主として、聯邦統合の結果に外ならず。獨逸帝國組織せられてより、中央政府は、單に鐵道のみならず、水運に於ても、銳意、國內運輸の完成統一を謀りたり。

獨逸に於ては、私有鐵道と國有鐵道と相並びて發達したり。私有鐵道は資本に乏しく、且つ主動的計畫を缺きたるが故に、政府は往々にして、餘儀なくも、自ら新線路を敷設したりしが、普佛戰爭によりて示されたる軍事上の必要と、新帝國の經營の伴へる財政上の急務とは、ビスマークをして、中央政府管理の下に、全國鐵道の統一を企圖せしむるに至れり。聯邦中の比較的大國が、鐵道行政權の交附を拒絶したることは、ビスマークの計畫を一時蹉跌せしめたるも、普魯

西國は率先して國有を實行し、而して普魯西の先例は漸次、諸州の則る所となれり。

鐵道國有政策の眞意

普魯西國が鐵道國有を實行したる目的は、單に軍事上及び財政上の利益のみに止まらず、先づ國內産業の發達を助長する大方針を定め、此の方針に基き鐵道利用の方法を實行したる也。されば普魯西國は、先づ私有鐵道に免る能はざる弊害、即ち特別恩顧の荷主に對する割引、遠距離直輸送に對する便方の不備、手數料の不廉、其他、私設會社の利益と公共の利益と相一致せざる各種の弊害を撤去するを本意としたり。普魯西が其の國內に於て、鐵道の援助を要する、特殊の利益に對し、特に運賃を低減するに躊躇せざりしは、實に之が爲めにして、例せば、造船事業を擴張するの希望、盛なりし際に於て、其の原料に對する運賃の大低減を斷行したるが如き。漢

堡汽船會社と協同して、帝國內地と地中海東岸及び東部阿弗利加諸港との聯路運賃の大割引を行ひ、以て他國の運輸業者を制せんとしたる如き、皆これ産業獎勵を目的とせる鐵道政策の發現に外ならず。今や鐵道國有の政策は、殆ど帝國全部に普及し、一九〇四年の統計によれば、廣軌線路にして、私設會社の所有に屬するは、僅かに二、八〇七哩あるのみ。財政上より見れば、聯邦諸州の總歲入一、一五五、〇〇〇、〇〇〇弗の内、鐵道益金は約四割、即ち四六一、九四〇、〇〇〇弗の多きに達す。而も益金の多きとは、偶々以て鐵道の發達を阻害する所以たらずんばあらず。蓋し各州政府は、鐵道益金を以て好箇の財源となし、財政上の必要よりして、改良及び延長の必要を犠牲に供することあれば也。

國有政策の實行以來、遠距離直輸送の取扱は、概して統一を保つも、

普魯西、バヴァリア、ウルテンベルク、バーデン等の大國は、今尙ほ各自に其の國有鐵道を管理するを以て、恰も私設大會社間に於るが如く、各州制度間に軌轢競争を來すことなきにあらず。例せば普魯西鐵道廳の如き、曾つて索遜線路を除外し、特に迂回線路によりて運輸を營み、以て後者に不利を與へたることありき。

普魯西鐵道の旅客運賃は、每一キロメートル一等八ペンニヒ、二等六ペンニヒ、三等四ペンニヒ、四等二ペンニヒ、兵卒及び勞働者一ペンニヒにして、之を米國の標準に換算すれば、每一哩一等三仙三分一、二等二仙三分一、三等一仙三分二、四等一仙、兵卒及び勞働者二分一仙なり。但し此の運賃率は、短距離に限られ、長距離急行は一等三仙二分一、二等二仙五分三、三等一仙四分三の割合なり。

近年に於ける旅客及び貨物輸送の増加は、大略左表に示す所の如し

獨逸鐵道旅客輸送表

	旅客總人員	每キロメートル人員
一八九三年	五二一、四七九、〇〇〇	一一、五五二、〇〇〇、〇〇〇
一九〇二年	八八二、九八八、〇〇〇	二一、〇二八、〇〇〇、〇〇〇

獨逸鐵道貨物輸送表

	貨物總噸數	每キロメートル噸數
一八九三年	二四四、一七九、〇〇〇	二四、六六一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇二年	三六四、六二九、〇〇〇	三六、六七〇、〇〇〇、〇〇〇

一八九三年以來貨物運賃率が如何に低減せられたるかは、左表に示す如く、毎キロメートル毎噸の收入減少によりて知るべし。

獨逸鐵道運賃率比較表(毎キロメートル一噸)

	速達輸送	普通輸送
一八九三年	二四・四七(一哩)〇・〇九五	三・七九(〇・〇一四)

一九〇二年 一七・〇二(同) 〇・〇六七) 三・五二(〇・〇一三)

一九〇一年に於ける獨逸の鐵道營業を英米兩國と比較すれば左の如し。

	哩數	每キロメートル運輸數		運賃收入	
		旅客人員	貨物噸數	旅客一人一哩	貨物一噸一哩
英國	二二、二〇二				
獨逸	三三、〇八〇	四一三、八二〇	六五一、五九〇	〇・〇一〇三	〇・〇一三
米國	一九八、三四六	八九七二一	七六〇、四一四	〇・〇二〇六	〇・〇〇七六

(備考——獨逸の貨物運賃收入は速達便をも含む)

鐵道哩數の延長及び貨物輸送の増加は、明らかに國內市場の發達を指示す。運賃の大低減は製造業者及び販賣業者をして、國內剩す所なく、工場製品を極めて廉價に搬送せしめ、一般人民をして、手づから其の需要品を作成するの餘地なきに至らしめたり。斯くて社會の

各階級は、其の製産物若くは勞力を賣らんとするにも、將た又其の日常必要の物品を買はんとするにも、愈々益々市場に依頼することゝなれり。此に於て乎、廉價にして同質なる物品に對する多量の需要を生じ、大規模の工場及び製造に資すべき要件備はりたる也。

(二) 外國貿易の發達

人口と増加と國運の變轉

一八五〇年に於ける獨逸の人口は三五、三

一一、〇〇〇なりしが、一九〇四年には五九、四九五、〇〇〇と算せらる。即ち五十四年間に於ける増加數、實に二四、一八三、〇〇〇にして、世界の強大國中、獨逸以上の増加率を示したるは只だ北米合衆國あるのみ。

此の如く二四、一八三、〇〇〇の増加をなしたることにより、獨逸國

内の人口密度は每一方哩一六五人より二八〇人に増加せり。換言すれば此の二四、〇〇〇、〇〇〇の新人口は、其の舊人口を以て既に、米國中最も人口多き北部大西洋諸州以上の密度を有する地域、若くは殆ど佛國の每一方哩一八五五人に匹敵すべき密度を有する地域内に、棲居すべき餘地を割取せざるべからず。

人口此の如く倍加したる以上、産業の大變動は必要上、固より之に伴はざるべからず。即ち一八〇五年の頃に於て、食糧品及び原料品を多量に輸出し、製造品を多量に輸入したる獨逸は、今や製造品を以て、其の重要輸出品とし、食糧品及び原料品を以て、其の重要輸入品とするに至れり。獨逸は、此の年間に於て、英國が夙に經過したるが如く、農業國より一轉して工業國及び商業國となりたるなり。之を要するに土地の生産力は人口の増殖に應じて以て、必要なる食糧を

供給する能はざるが故に、不足額の填補は之を外國よりの輸入に仰がざる能はず、斯くて獨逸は其の剩れる勞力を使用して、間接に人民の生活を利する爲め、工業國たらざるを得ざりし也。

貿易表に現はれたる事實 左の統計表(一九〇三年)は、獨逸の外國貿易に關し、其の概勢を示すに足るべし。

獨逸外國貿易輸出入品別表

品名	輸入		輸出	
	價額	總計に對する率(%)	價額	總計に對する率(%)
工業原料品	六八三、二八〇、〇〇〇	四五・〇	二九四、一〇〇、〇〇〇	二三・八
製造品	二九〇、三七三、〇〇〇	一九・一	七八八、七〇〇、〇〇〇	六四・〇
食糧品	四七一、七〇〇、〇〇〇	三〇・九	一二二、六一〇、〇〇〇	九・九
貴金屬類	七六、五五〇、〇〇〇	五・〇	二七、八〇〇、〇〇〇	二・三

外國貿易なるもの、獨逸に於けるは、恰かも英國に於けるが如く、單

に經濟的利益如何の問題にあらずして、實に生死存亡の問題也。獨逸は其の人民を養はんが爲めに、國外より食物を得來らざるべからず、國外より食物を得來るには、國內に於て盛に製造業を行ひ、其の産物を外國市場に販賣せざるべからず、而して其の産物の價格たる、原料に比し勞力を以て大部分を占めざるべからず。左の統計表は以て之を證するに足るべし。

輸出重要品價比例(總價額に對し)表

品名	一八七八年			一八九三年			一九〇三年		
	價額	總計に對する率(%)	價額	總計に對する率(%)	價額	總計に對する率(%)	價額	總計に對する率(%)	總計に對する率(%)
綿製品	三・二	三・二	四・八	四・八	五・九	五・九	四・三	四・三	四・三
羊毛製品	四・五	四・五	五・七	五・七	四・八	四・八	四・五	四・五	四・五
機械類	三・一	三・一	二・〇	二・〇	四・五	四・五	四・三	四・三	四・三
石炭	二・八	二・八	三・二	三・二	四・三	四・三	四・三	四・三	四・三

穀類及製粉	裸麥	鐵礦	護謨類	羊毛	智利硝石	石油	ラード	葉煙草	毛糸	玉蜀黍	木材	馬	生銅	卵
一六〇〇	三八	〇二	〇二	〇七	一九	一〇	二五	二一	一七	一四	〇五	〇七	〇九	一四
一〇〇〇	〇六	〇五	〇六	〇七	一六	一一	一七	一八	二八	一四	一四	一二	〇九	一四
一〇〇〇	一三	一二	一二	一三	一三	一四	一四	一四	一四	一五	一五	一六	一七	一七

機械類	棉實
一・五	一・一
〇・七	一・〇
一・一	一・〇

重要輸出入品の概勢

以上の畧表に徴すれば、輸出入を通じて、獨逸貿易の最重要品は、羊毛、棉花及び其の製品なり。獨逸は元來、棉花を産出せず、而して羊毛は僅かに、肉を主とする飼羊業の副産物に過ぎざるが故に、棉製品及び毛製品の輸出は、全く勞力製産の輸出と見做すべく、決して土地製産の輸出と見做すを得ず。輸入棉花の四分

三は、輸出棉製品を以て支拂はるゝなり。
 輸出品中、砂糖は特別の例外なり。製造の手續を経ざるにはあらざるも、元來農産品たり、食糧品たるが故に、甜菜農作は主にして、甜菜より砂糖を製造するは従なり。獨逸が砂糖を輸出し得る理由は、第一、甜菜の農作は聚約を主とするが故に、作付毎エーカーに對し多く

の勞力を要するが爲め、第二、獨逸の地味が特に此種の作物に適合するが爲めにして、輸出砂糖獎勵の政策は、更に人爲を以て此の事業の發達を促したり。一八九三年以來、獎勵金は廢止せられ、且つ其の價格は「シンチケート」の組織により引上げられたるを以て、一八九四年に於ける輸出價額二〇九二、〇〇〇馬克は、一九〇三年に於ける一八六、七〇〇、〇〇〇馬克に減少し、一八九四年に於て輸出の第一位を占めたるもの、一九〇三年には第五位に低落せり。

機械類の第一原料は鐵及び鋼にして、此の兩者は獨逸産出原料中、最も豊富と稱せられ、而して其の價を増すは、主として勞力の之に加はるが爲めなり。加之、機械なるもの、價も、其の大部分は勞力にして、此の勞力の大部分は、熟練したる最高等の階級に屬す。故に獨逸の如き、剩りある勞力と、節約すべき富源とを有する國に取りては、

機械類の輸出、極めて有利ならずんばあらず。

石炭の輸出は、一九〇三年の統計に於て、總輸出の四分二厘に當るも、輸入と相殺すれば、二分五厘に過ぎず。且つ一八九九年より一九〇三年に亘る、多量の輸出は、事業不振の時期に於ける、礦山産出の過多に基くものにして、爾來礦主の協同により、産出過多の趨勢を押し止するに勉めつゝあるが故に、將來大に輸出の量を減少するに至らむ。

貿易品目として、一八七八年來、變動最も著しきは穀類なり。同年に於て、穀類及び製粉は輸出總價額の一割二分九厘、輸入の一割六分を占めたりしも、一九〇三年には、輸出に於ては僅かに一分二厘、輸入に於て總額の一割に減少せり。之を換言すれば、一八七八年に於ては、穀類の輸出に對する輸入の超過、輸入品總價額の約三分なりしも

一九〇三年には八分五厘となりたるなり。獨逸が、其の麵麩原料の供給を、外國に仰くこと、年と共に愈々切なるに拘はらず、過去廿五年間に於ける穀類の輸入が、此の如く増進すること尠きは、一見甚だ奇なるが如しと雖も、翻りて輸出の減少、著るしきに照合すれば、直ちに其の然るべきを知るに足らむ。一八七八年に於ける小麥の輸出は總輸出の五分四厘を占め、其の輸入は五分六厘にして、輸入超過の實價一三、五〇〇、〇〇〇弗なりしも、一九〇三年には五六、六五〇、〇〇〇弗に達したり。

玉蜀黍は一八九九年の貿易統計に於て、輸入品價の第五位を占めたりしも、(其の八割五分は米國より輸入せらる) 關稅率の大に増加せられたる爲め、過去四年間に於て、三三、一〇九、〇〇〇弗より二三、〇七四、〇〇〇弗に減少せり。米國市場に於ける價格の不廉も亦、此

の減少を來すに與りて、大に力ありとす。
獨逸外國貿易増進の概勢を英、佛、米の諸國と比較すれば左の如し。

獨、英、佛、米國貿易増進比較表

獨逸		英國		佛國		米國	
輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
一八八四年	一八九四年	一九〇二年	一八八四年	一八九四年	一九〇二年	一八八四年	一八九四年
八二八、八〇〇、〇〇〇 ^弗	一、〇一〇、八〇〇、〇〇〇 ^弗	一、四二二、八〇〇、〇〇〇	八二一、八〇〇、〇〇〇	七八三、六〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、九〇〇、〇〇〇	一、九一五、四〇〇、〇〇〇	二、〇〇五、四〇〇、〇〇〇
一、〇九五、九〇〇、〇〇〇	一、七二二、六〇〇、〇〇〇	一、〇九五、九〇〇、〇〇〇	一、四五三、五〇〇、〇〇〇	一、三四四、五〇〇、〇〇〇	一、七二二、六〇〇、〇〇〇	一、〇二〇、一〇〇、〇〇〇	九三三、六〇〇、〇〇〇
一、〇七六、三〇〇、〇〇〇	一、〇七六、三〇〇、〇〇〇	一、〇七六、三〇〇、〇〇〇	八二一、三〇〇、〇〇〇	八〇三、一〇〇、〇〇〇	一、〇七六、三〇〇、〇〇〇	六七四、一〇〇、〇〇〇	六六一、三〇〇、〇〇〇
九一二、〇〇〇、〇〇〇	九一二、〇〇〇、〇〇〇	九一二、〇〇〇、〇〇〇	七四七、六〇〇、〇〇〇	九〇〇、七〇〇、〇〇〇	九〇〇、七〇〇、〇〇〇	七四七、六〇〇、〇〇〇	一、三九五、〇〇〇、〇〇〇

一八九四年以前に於ける、獨逸の外國貿易統計は、他國との比較に便

ならざるのみならず、其の區域の變更したるが爲め、前後年間の比較に便ならざるものあり。ブレンメン、漢堡、アルトオナの三大港は、一八八八年に至りて、始めて關稅同盟に加入し、これが爲め同年後の貿易統計は輸入に於て特別の増加を示したり。獨逸の輸入貿易に於ける重要國別左の如し、

獨逸輸入貿易重要國別表(總價格に對する比例)

	一八九四年	一九〇三年
米國	一二・四	一四・九
露西亞	一二・七	一三・一
英國	一四・二	一三・二
澳匈國	一三・六	一一・九
佛國(殖民地を含む)	五・〇	五・五
印度	三・八	四・五

亞爾然丁

二・四

四・三

同じく輸出貿易に於ける重要國別左の如し、

獨逸輸出貿易重要國別表(總價格に對する比例)

	一八九四年	一九〇三年
英國	二〇・八	一九・三
澳匈國	一三・二	一〇・三
米國	八・九	九・一
和蘭	八・〇	八・二
露西亞	六・四	八・一
瑞西	六・二	五・九
佛國	六・二	五・三
白耳義	四・九	五・二

一八九四年以來、獨逸に對する米國の輸出は、他の諸國よりも遙かに

大なる率を以て増進し、輸入國別表に示すが如く、英國を排して第一位を占むるに至れり。此の如き所以のものは他なし、獨逸が工業國として發達するに従ひ、其の原料品及び食糧品を外國に仰ぐと、益々多きが爲めにして、獨逸に對する米國の輸出は、此の二種を以て大部分を占む。即ち左表の如し、

米國よりの重要輸入品價表(一九〇三年)

品名	價額	總價額に對する比例(百分)
總輸入	二三五、八五〇、〇〇〇	一〇〇
生綿	七〇、三七五、〇〇〇	三三・〇
荒銅	一九、八六二、〇〇〇	八・四
小麥	一八、九三七、〇〇〇	八・〇
石油	一七、五九九、〇〇〇	七・五
ラジド	一七、六七八、〇〇〇	七・五

玉蜀黍	一二、八四九、〇〇〇	五・三
松脂及製品	六、八五五、〇〇〇	二・八
油糟	五、〇六九、〇〇〇	二・一
貯藏菓物類	四、四五一、〇〇〇	二・〇
オレオマルガリン	四、四七八、〇〇〇	二・〇
棉實油	三、〇五七、〇〇〇	一・三

米國は實に獨逸が輸入する生綿總額の七割及び小麥の八割三分餘を供給す。玉蜀黍の輸入は一九〇〇年に於ける二六、〇〇六、五〇〇弗より減じて一二、八四九、二五〇弗となれり、即ち五割以上の減少なりとす。石油の輸入は獨逸國內に於ける消費總額の八割を占め、獨米石油會社の占有に屬す。會社の配當が、一九〇一年には三割八分、一九〇〇年には三割一八九九年には四割五分なりしを見れば、獨

逸に於ける石油販賣獨占權の利益、米國に譲らざるを知るべし。
 然れども米國は、其の關稅の高率なる故を以て、獨逸製品に對する市場として、英國若くは澳匈國に及ばず、輸出統計左の如し、

米國に對する重要輸出品價表(一九〇三年)

總輸出	價額	總價額に對する比例 (百分)
棉製品(メリヤス類を含む)	一四、三七二、五〇〇	一一・二
棉メリヤス類	六、五九五、〇〇〇	五・六
絹製品	九、八八一、五〇〇	八・四
陶器	六、〇一六、五〇〇	五・一
アニリン染料	四、二三七、〇〇〇	三・六
其他染料	四、一七二、七五〇	三・五
玩具	二、八一九、二五〇	二・四
手袋		
總輸出	一一七、三〇〇、〇〇〇	一〇〇・〇

(三) 航運業の發達

航運業の發達と二大港

獨逸近年の産業的進歩を説明して餘蘊なきものは、其の航運業發達の成績に若くなし。一八七一年以來、獨逸汽船の噸數は百四十七割七分の増加をなし、世界汽船の總噸數よりすれば、其の五分に相當せしもの、今や八分に相當するに至れり。而して同期間に於ける、英國汽船噸數の増加は五十六割六分にして、佛國は三十四割七分なり。此の如く獨逸汽船噸數の増加、甚だ迅速なりしと雖も、現時の總數に於て、尙ほ僅かに英國の七分一に過ぎず。而も獨逸の航運業に於て、最も異とすべきは、港灣、殖民地、聲譽等の利益を兼有する英國と競争して、此の如き發展をなし得たるにあり。航運業なるものは、製鐵製鋼業の如く、強大なる競争者に對し、關稅

の牆壁を以て、掩護せられ得べきものにあらず、主として自己の力量により、其の進路を開拓せざるべからざるを以て也。

獨逸航運業發達表

年	帆 船		汽 船	
	隻數	登漕噸數	隻數	登漕噸數
一八七一年	四、三七二	九〇〇、三六一	一四七	八一、九九四
一八九一年	二、六七五	六九三、四一五	八九六	七二三、六五二
一九〇〇年	二、二八八	五三六、三九九	一、二九三	一、一五〇、一五九
一九〇三年	二、二三二	四九八、五二〇	一、五四五	一、六二二、四三九

獨逸航運業の大部分は、漢堡及びブレンメンの二港に占有せられ、一九〇一年の統計によれば、漢堡に籍を有する船舶(帆船汽船を併せて)八四六隻、一、六〇一、九九四噸にして、ブレンメンに籍を有するもの五一三隻、八七五、五九八噸なり。新式の巨船は大概、漢堡の漢堡亞米利

加會社、ブレンメンの北獨逸ロイド會社の所有に係る。此の二會社は實に世界最大の汽船會社にして、前者は一二五隻、六一九、九一六噸を、後者は一一五隻、四九七、三四四噸を所有し、一九〇四年には大西洋横斷乗客全數の四割を取扱ひたりき。北獨逸ロイド會社の「カイゼル、ヴァイルヘルム第二世」の如き、其の噸數一九、五〇〇にして、此の一隻のみを以て、一八二五年に於けるブレンメン港在籍商船の總噸數(二四、六〇〇)に優り、又一八四〇年に於ける漢堡港在籍商船二二一隻(三九、六七〇噸)の半に匹敵す。

各國との比較 一九〇一—〇三年に於ける、各國航運業の比較表左の如し。

列國航運業比較表

國	汽船		各種船舶合計	
	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數
獨逸	一、五四五	一、六二二、四三九	四、〇四五	二、二〇三、八〇四
露西亞	八一〇	三九一、六九七	三、一八八	六六四、二〇八
佛國	一、三三〇	五四八、九二一	一六、〇二一	一、二一七、六一四
英國	九、七七〇	八、〇九八、七六〇	二〇、〇四三	一〇、〇三〇、六一〇
米國	八、〇五四	三、四一八、〇八八 (總噸數)	二四、四二五	六、〇九七、三四五 (總噸數)

以上は内地河川に屬するものをも合算せり。若し更に獨逸諸州に於ける、海上航運の概況を、列國と比較すれば左の如し。但し左表は國內諸港間の航運業を含まず、又殖民地は總て外國と見做して計上せり。

各國港灣船舶出入比較表(一九〇二年)

國	入 港		出 港	
	自國船	外國船	自國船	外國船
獨逸	七、七四七、〇三六	七、七四九、六九〇	七、六七〇、一七七	七、七一五、六二八
英國	三三、三〇二、四三六	一七、三二七、六八一	三二、六〇〇、四七一	一七、六五二、一三一
佛國	四、九一七、二二二	一四、一二三、二九六	五、三五九、二六二	一四、二四四、二四五
米國	四、〇一九、八七一	二〇、三四一、五六四	三、九五五、五一五	二〇、二八六、五八九

以上の如く、獨逸航運業の約二分一は、自國船舶によりて營まるゝも、英國が自國の船舶により、其の通商貿易の三分二を營むに比すれば、未だ及ばざること遠しと云はざるべからず。

獨逸政府が、定期郵便航路に對する、補助として、北獨逸ロイド及び東阿弗利加汽船會社に給與する金額は一七、〇二七、五〇〇弗にして、此の補助金は、海軍省の規定に基き、汽船の構造が、戰時巡洋艦として就役し得べきを條件として給與せらる。

第四章 各種産業の發達

(一) 製鐵及び製鋼業

天然及び人為の障礙——特に獨逸を利したる新發明——製鐵業地方の概況
——英米兩國との比較

(二) 鑛業

鑛産額の増加——石炭の産額及び産出地方の概況

(三) 機械製造業

獨逸製造業の長所——機械製造業發達の概況——電氣工業の進歩

(四) 化學工業

獨逸特有の工業——化學製造品の大宗たる染料——人造インデゴの發明——
 化學的染料製造業者

(五) 紡織業

大規模工場以前の紡織業——紡織業の新時代——英佛米との比較——領土
 内に於ける棉花栽培の企圖

(六) 農業

農業と政治經濟問題——獨逸農業衰退の原因——獨逸農業者の怠慢——農
 業附隨の製造業

(七) 産業組織の發達

遲緩ながらも確實なる發達——大規模製産業の増加——カールテルの組織——
 産業組織の一例一害

(一) 製鐵及び製鋼業

天然及び人為の障礙

近世の獨逸が、其の産業を以て強を稱する所以の基礎は、英國に於けるが如く、其の製鐵及び製鋼業にあり。塊鐵の

産出に關して、獨逸は常に英國との競争上、不利益の地位に立てり。

必要の原料たる鐵礦と石炭とは、容易に且つ廉價に、之を集合するを得ず、而して又獨逸の鐵礦は燐分を包含すること多量なるの故を以て、一八六八年「トマス、ギルクリスト」方式の發明せらるゝまでは、頗る劣等のもつと見做されたりき。

鐵礦區と石炭礦區とが、互に近邇し、若くは廉價の運賃を以て、集合せらるべき地點に存在することは、製鐵業の重大要件なり。英國の如きは、此點に關する便宜を充分に具備せり。即ち兩者相並びて海岸に近く存在し、運搬極めて容易なるのみならず、自國の採掘不足を訴ふる場合に於ては、鐵礦にせよ、石炭にせよ、外國産を自由に使用

して、其の作業を繼續し得べき也。ドクトル、アレンドルフの計算したる所によれば、英國に於ける塊鐵の製産費中、運搬費に屬する部分は、九分乃至一割なるも、獨逸の製鐵業は一割八分乃至三割を原料の運賃に費すと云へり。

されば獨逸の製鐵業は、殆ど全く鐵道の運輸に依頼するものにして、鐵道の經營大に進歩し、運輸力充實し、運賃低減せらるゝに至るまで、英國の競争は實に獨逸製鐵業發達の障礙なりき。且つ獨逸の製鐵業は、十九世紀の中葉に際し、同國各種の産業に及ぼせる通弊に苦しみたるのみならず、更に遠く溯りて、一七九四年以來、政府官吏をして、一切鑛山業を管理せしむる法律の爲めに抑壓せられたりき。一八七四年より一八七九年に至る、自由貿易主義の全盛は、更に長く獨逸製鐵業の發達を阻止したり。左表は即ち自由貿易主義の影響、並

に獨逸製鐵業發達の趨向を示するに足るべし。

	内國產出額	輸入額	關稅率
一八七二年	一、九二七、〇〇〇 ^噸	六六三、〇〇〇 ^噸	一噸六十二仙半
一八七三年	二、一七四、〇〇〇	七四三、〇〇〇	十月一日より無稅
一八七四年	一、八五六、〇〇〇	五四九、〇〇〇	
一八七八年	二、一一九、〇〇〇	四八五、〇〇〇	
一八七九年	二、二〇一、〇〇〇	三八八、〇〇〇	六月一日より一噸 二弗六十仙
一八八五年	三、六四七、〇〇〇	二二三、〇〇〇	
一八八六年	三、四九九、〇〇〇	一六九、〇〇〇	
一八九〇年	四、六二六、〇〇〇	四〇四、〇〇〇	
一八九五年	五、四三三、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	
一八九九年	八、〇九五、〇〇〇	五六九、〇〇〇	
一九〇〇年	八、四六九、〇〇〇	七四一、〇〇〇	

特に獨逸を利したる新發明

一八七〇年以降、製鐵業の發達を促したる最大原因は、「トマス、ギルクリスト」方式の發明なり。此の方式發明せられてより、鐵鑛中の燐分を分離し、以て從來鑛石の價値を損したる分子を驅逐し得るのみならず、其の副産物として高價なる人造肥料を製出し得るに至れり。而して此の發明の恩惠に浴すること最も多きは、獨逸にして、特にローレーン地方に於ては、其の鑛石に包含する多量の燐分、既に製鐵業の障礙たらざるのみならず、農業に對して多大の利益を與ふるものとなれり。即ち獨逸が需要する燐酸の四分三は、熔鑛爐の副産物にして、一ヶ年の産額實に四五〇、〇〇〇噸の多きに及ぶ。而して其の大部分は人造肥料に用ゐらるゝ也。

國內製鐵業地方の概況

此國に於ける、最も舊き鐵鑛區域は、ライン河に近きシーゲルランド地方なり。往時に於ては、鑛區近傍に、森林

の密生繁茂するありて、熔鑛用の木炭を供給したるを以て、鑛石若くは燃料を、遠距離に運搬するの必要なかりしが、今や此の地方の鑛石は、石炭の所在地、特にウエストフアリア地方に運送せらる。

ローレーン地方の鑛石は、シーゲルランド産に比して、鐵分を含むことと少く、燐分を含むこと遙に多し。而も此の地方は獨逸國內需要高の五割八分を供給し、其の地中に包藏する鑛石の數量は、無慮三十億噸と算せられ、現時の探掘量を以てすれば、七百年の久しきに堪ゆべしと云ふ。此の地方の製鐵業に使用せらるゝ石炭は、概してサアル地方より輸送せらる。されば、ドクトル、パックスマンの如きは、鐵鑛と石炭鑛との所在、互に近邇せる事實より推して、獨逸製鐵業の中心は、將來ライン附近のウエストフアリアより、ローレーン地方に移るべしと豫測するに至れり。

ライオン、ウエストフアリア地方の製鐵業は、ドルトムント地方に集中し、其の塊鐵產出高は、全國の約四割を占む。其の原料としては、シールゲルランド及びナツソー地方の鑛石以外、瑞典、白耳義、和蘭及び遠くは西班牙より輸入せらるゝ數量も亦莫大なり。此の地方に製鐵業の勃興したる第一原因は、良質のコークス炭に富むを以てなり。シレシア地方は國境の東方に偏在し、運輸の便宜に於ても、市場の關係に於ても、遙かにウエストフアリア地方に及ばず、而も鐵鑛區と石炭鑛區の所在、相近邇するの利益を有す。但し其の石炭は頗る不純なるが故に、コークス用としては劣等なるも、其の鑛石は多量の鐵分を含み、其層極めて淺く、且つ炭鑛に隣近せり。其の塊鐵產出高は、全國の約一割を占む。

英、米兩國との比較

獨逸の塊鐵及び鋼鐵產出高は、最近に至りて英

國を凌駕し、今や直ちに米國の次位を占むるに至れり。三國製鐵業發達の比較表左の如し。

獨、英、米、佛國製鐵業比較表

	一八六五年	一八八〇年	一八九〇年	一九〇〇年	一九〇三年
世界總產出高	九、四八一 <small>千噸</small>	一八、三三一 <small>千噸</small>	二七、六二七 <small>千噸</small>	四〇、八三七 <small>千噸</small>	
米 國	八四五	三、八九六	九、三五三	一四、〇〇九	一八、二九八
英 國	四、八九六	七、八〇二	八、〇三三	八、九〇九	八、九五二
獨 逸	九七五	二、七二八	四、六五八	八、五二〇	一〇、〇一八
佛 國	一、二九〇	一、七三三	一、九六二	二、六九九	二、八二八

獨、英、米、佛國製鋼業比較表

	一八八〇年	一八九五年	一九〇〇年
世界總產出高	四、二三三、四二〇 <small>噸</small>	一四、八九八、〇八二 <small>噸</small>	二七、八五九、八八二 <small>噸</small>
米 國	一、二八七、九八三	六、三一二、〇七四	一〇、六八九、六四〇

獨逸	六二四、四一八	二、八三〇、四六八	六、六四六、八六九
英國	一、三四一、六九〇	三、三六五、五二三	四、九〇四、二三八
佛國	三八八、八四四	七一四、五二三	一、六六〇、一一八

獨逸に於ける、人口一人に對する鐵の消費高は、一八八八年以來二倍の増加をなし、一八六一年以來五倍の増加をなせり。一八八八年以後に於ける急速の増加は、主として電氣業の發達に起因す。電氣機械の製造は、鐵に對する新需要を喚起したるのみならず、電氣力の應用により、市街鐵道の敷設盛に行はれ、斯くて鐵軌の需要愈々大なるに至れり。

獨逸人口割塊鐵消費表

一八六一—六四年	五〇・四 ^{封度}	一八九一年	一三九・〇 ^{封度}
一八七三年	一四四・六	一九〇〇年	一六二・九
一八八二年	一〇三・〇		

一九〇一年に迫りて一大頓挫あり、前年の産出頗る過多なりしが爲めに、其の現象特に著るしく、人口割消費高は二六二・九封度より、忽ち一七八・四封度に低落し、過去十年間の平均よりも尙ほ少額となれり。此に於て、製造業者は過多の産出を防止せんが爲め、協同せざるを得ざるに至り、其の結果として強大なる『シンヂケート』組織せられ、現に市場の權力を掌握す。此等の『シンヂケート』が當面の必要に驅られて成立したる事實は、米國の『ユルポレーション』が盛運に乗じて組織せられたると、全く其の趣を異にするが故に、一般公衆の嫉視を招くこと甚しからず、従つて非『シンヂケート』の立法は、今日に至るまで未だ曾つて企圖せられざる也。

(二) 鑛業

鑛産額の増加
 の業に従事す。而して其の大部分は大會社に使用せらる。即ち採鑛冶金に従事する總數の五分四は、二百以上の職工を有する會社の使
 用する所たり。獨逸鑛産の數量及び價額大畧左の如し。

獨逸鑛産額累年比較表

	數量	價額
一八六一—六五年平均	二六、〇〇〇、〇〇〇 ^噸	一五一、〇〇〇、〇〇〇 ^{馬克}
一八七一—七五年平均	五一、〇〇〇、〇〇〇	三三七、〇〇〇、〇〇〇
一八七六—八〇年平均	六〇、〇〇〇、〇〇〇	三四六、〇〇〇、〇〇〇
一八九〇年	一〇四、〇〇〇、〇〇〇	七二五、〇〇〇、〇〇〇
一八九八年	一四八、〇〇〇、〇〇〇	九三七、〇〇〇、〇〇〇
一九〇二年	一七四、〇〇〇、〇〇〇	一、二三五、〇〇〇、〇〇〇

一九〇二年の産出總額を種別すれば左の如し。

	數量	價格
硬炭	一〇七、四七三、九〇〇 ^噸	九五〇、五一七、〇〇〇 ^{馬克}
軟炭	四三、一二六、三〇〇	一〇二、五七一、〇〇〇
石鹽	一、〇一〇、四〇〇	四、六九九、〇〇〇
ポツタシウム鹽	三、二八五、〇〇〇	四〇、〇〇六、〇〇〇
鐵鑛石	一七、九六三、六〇〇	六五、七三一、〇〇〇
鉛	一六七、九〇〇	一三、四三六、〇〇〇
錫鑛石	七〇二、五〇〇	二九、九一一、〇〇〇
銅鑛石	七六一、九〇〇	二〇、四三一、〇〇〇
金銀鑛石	一一、七〇〇	一、三八九、〇〇〇

石炭の産額及び産出地方の概況

石炭は實に鑛産中の第一位を占む。

其の産額を他國に比較すれば左の如し。

獨、英、米國石炭産額比較表

	獨逸	英國	米國
一八九一年	九四、二五三、〇〇〇 <small>噸</small>	一八八、四五六、〇〇〇 <small>噸</small>	一五二、九二一、〇〇〇 <small>噸</small>
一九〇二年	一五〇、五〇〇、〇〇〇	二三〇、七三九、〇〇〇	二七三、五一五、〇〇〇

獨逸國中、最舊の硬炭産出地は、ライン、ウエストファリア地方なり。此の地方に包藏せらるゝ總量は、無慮二、九三〇、〇〇〇、〇〇〇噸、即ち年々一億噸を採掘して、千二百九十三年間を支ゆべしと計算せらる。

其の地中に包藏する數量は、ウエストファリアに及ばざるも、現時の産出高最も多きは、上部シレシア地方なり。此の地方のみを以てするも、其の包藏する數量、英國炭礦の全部に超ゆること多しと計上せらる。或る「オーソリチー」の計算する所によれば、此の地方に於ける地下千米突以内の硬炭數量六二、八〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸にして、

千五百米突までを數ふれば一〇一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸なるべく、若し夫れ二千米突まで採掘せば、一四〇、八〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸の多きに達すべしと、

下部シレシア及びサルプルツケン地方は、到底前記地方の比にあらざるも、尙ほサルプルツケンは、硬炭一四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸を包藏すと云ふ。

以上の推算よりして、獨逸は今後、長年月に亘りて、産業の基礎たる石炭の供給に堪え得ることを豫知するに足らむ。

(三) 機械製造業

獨逸製造業の長所

一八九〇年以降、獨逸國內に於ける、鐵及び鋼の消費高、大に増加したる一事は、直ちに以て機械製造業の大發展を指

示するに足る。更に之を詳言すれば、鐵及び鋼の産出、此の如く多量なれば、採鑛及び冶金に要する機械甚だ夥多なるのみならず、此の如くにして産出せられたる鐵及び鋼は、機械の製造、若くは盛に機械を使用すべき鐵道、橋梁、及び家屋の建造に消費せらるゝなり。

獨逸人は未だ機械の大發明者たる聲譽を有せず、此點に於ては遙かに米國人の下風に有りと雖も、而も機械製造國民としては、既に第一流の地位を占む。彼等の最も長所とする所は、他の發明したる所、改良したる所を、直ちに收めて自家の用となすにあり。されば獨逸は、米國最新式の機械に對する、絶好の市場なるも、暫時にして獨逸人自ら同種の機械を製造し、且つ概して米國よりも廉價に製造し、斯くて米國よりの輸入を防止す。此點に於て、獨逸人は、英國人よりも遙かに器用なり。

『倫敦タイムズ（一九〇三年の秋）に掲載せられたる著名の論文、『獨逸工業論』の著者曰く、

『過去十五年間、各所の勸業博覽會を、漏さず巡覽し、且つ米國、英國其他歐洲各國の事を熟知する、最も信憑すべき「オーソリチー」の證明、既に剩す所なし。其人、（一九〇二年ツツセルドルフに開かれたる獨逸製品展覽會を評して）曰く、これ從來予が觀たる機械器具の博覽會として、實に最好のものなりと。』

然りと雖も、英國は尙ほ紡績機械の製造に於て、米國は各種農業機械の製造に於て、優に首位を維持するに足る。

器械製造業發達の概況

獨逸の機械製造業が、大發達をなしたるは、

一八九五年以後にあり。但し同年以後に於ける精確の統計は未だ作成せられたるものなきが故に、暫らく同年の數字を一八八二年と比

較すれば左の如し。

	一八八二年	一八九五年	増如率 (百分)
機械製造會社數	八二、八七四	八七、八七九	六
使用人員	三五六、〇八九	五八二、六七六	六三・七

會社の増加率に比して、使用人の増加率、甚だ大なるは、此種の製造業に於て、集中主義の盛に行はれたることを指示する所以也。之を實際の情態に徴するに、十人以下を使用する會社の數は、何等の増加をも示さず、而して五十人以上を使用する會社の數は殆ど二倍の増加を示したり。

一八七九年以來、普魯西國內に於ける、蒸汽力使用量増進の趨勢左の如し。

	一八七九年	一九〇一年
汽機數	二九、八九五	七五、九五八
馬力數	八八七、七八四	三、七〇九、六六二

現在獨逸帝國内の機關車製造工場數は十八にして、二萬人の職工を使用し、年々千四百臺を製出す。一九〇三年に於ける、機關車及び牽引用汽機の輸出價額は、七、六〇三、〇〇〇弗にして、其の二割五分は露西亞及び西班牙へ輸出せられ、其の價格各壹百萬弗に達したり。露西亞に對する輸出は、其の盛時に於て、二百萬弗を超過したることありしも、一八九六年以來、漸次減少の傾向あり。此の如き減少を來したるは、米國の競争あるが爲めにして、特に米國の工場は、獨逸若くは英國の工場に比して、注文品の引渡、遙かに迅速なるの便益あり。

電氣工業の進歩

近時獨逸の進歩、最も著大なるは、其の電氣工業にして、電氣工業の進歩此の如く著大なるは、疑もなく、其の絶好なる工藝學校の設備が齎らし來りたる結果なり。

一八八〇年の頃に於て、電氣なるものは、商事上單に電信にのみ使用せられ、一八八二年の統計によれば、電氣工業に従役する人員は、殆ど數ふるに足らざりき。降つて一八九五年に及びては、従業人員一萬五千となり、今や五萬人の多きに達し、此の事業に放下せられたる資本總額二十億弗と算せらる。獨逸をして、米國に次ぎて、世界第二の地位を占めしめたる、此の如き異常迅速の發達は、他の産業を刺激すること固より非常にして、一八九六年より一九〇〇年に亘れる大繁榮に資すること少小なりとせず。參照の爲めに、米國に於ける電氣機械製造業の趨勢を畧述すれば左の如し。

米國電氣機械製造業畧表

	一八〇〇年	一八九〇年	一九〇〇年
會社數	七六	一八九	五八〇
資本總額	一、五〇〇、〇〇〇 _弗	一九、八〇〇、〇〇〇 _弗	八六、〇〇〇、〇〇〇 _弗
使用人員	一、二七一	八、八〇二	四〇、八九〇
製産價額	二、七〇〇、〇〇〇 _弗	一九、二〇〇、〇〇〇 _弗	九二、〇〇〇、〇〇〇 _弗
俸給及工賃	七〇〇、〇〇〇	五、四〇〇、〇〇〇	二四、九〇〇、〇〇〇

電氣の重要な一用途は、市街鐵道なり。一九〇二年の概算によれば、電氣鐵道の便を有する獨逸都市の數は、一百以上にして、線路總延長二千二百哩、資本總額十億弗に上る、之を歐洲全體より云へば、獨逸の所有する電氣鐵道は、歐洲全體の三分一に及び、其の線路延長は、總理數の半以上に及ぶ。英國を除きて、歐洲現在の電氣鐵道線路の九割一分は、獨逸會社の敷設したる所に係る。只だ獨逸の電氣鐵

道は、米國に於けるが如く、長距離の運輸に於て、未だ蒸汽鐵道と競争を開始するの程度に達せず。

獨逸に於ける六大電氣會社の資本は、其の株式及び社債を併せて、八〇、〇〇〇、〇〇〇弗を超ゆ。即ち一八九四年に於ける一六、〇〇〇、〇〇〇弗より、此の如き増加を示したる也。就中、萬國電氣會社と稱するものは、三個の大製造場を有し、一萬七千の人員を使用し、一八九九—一九〇〇年度に販賣し得たる「ダイナモ」の數は一萬六千臺、其の馬力二十萬八千と算せらる。同會社の手により、同年度までに建造したる電氣工場は二百五十箇所にして、其の營業區域は、歐洲全土を包括して、更に他の大陸に及び、智利、亞爾善丁兩國の事業を経営せんが爲め、二、五〇〇、〇〇〇弗の資本を以て支會社を設立するに至れり。

一九〇三年に於ける、電氣機械の輸出價格は五、〇〇〇、〇〇〇弗にして、其の二割五分は英國に輸出せられたり。英國は實に獨逸製電氣機械の大華客たる也。

農業機械に至りては、最近四年間に於て、輸入價額殆ど半減したりと雖も（一九〇〇年の六、九一九、〇〇〇弗は一九〇三年に至り三、一〇〇、〇〇〇弗となれり）、今尙ほ其の輸入する所は、輸出する所よりも多し。輸入の約三分二は米國より來り、輸出の半以上は露西亞に向ふ。

(四) 化學工業

獨逸特有の工業

化學工業は即ち、獨逸が優に世界の第一位を占むる所なり。近代獨逸の産業進歩を指示する、最好の例證は此種の工

業にして、又獨逸をして産業上、強大なりしめたる原因を、最も明白に闡明する所以也。其の毎年製産額三〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗以上、即ち機械製造業の總製産額に優ることを知らば、以て直ちに化學品製造業の如何に重要なかを了解するに足らむ。此の優越なる産業は、獨逸に特有なる工藝教育の直接産物にして、一八二七年、ユスタス、ヴィーリービヒ教授が、ギーセン大學に化學試験室を創設したるに、其の端を發す。此の成績極めて良好なりしよりして、各州政府は相競ふて科學研究の爲め、高等の學校を設立するに勉めたり。此等の工藝學校及び大學試験室は、獨逸をして、産業上強大國民たらしめたる基礎にして、化學工業の大寶殿は此の基礎の上に建設せられたる也。粗製化學品の製造に關し、獨逸は甚だ、原料の供給に富む。鹽、硫黃、

石灰石は勿論、火力及び原動力に必要な石炭の供給も亦無盡なり。化學工業に従事する大株式會社の數は、一八九八年に於て、百〇四社にして、資本總額二九五、三七三、一〇〇馬克、利益配當二九、九二二、九七〇馬克即ち平均一割三分五二なりき。

化學製造業の大宗たる染料

各種の化學工業の内、最も注目を價するは、

染料の製造なり。獨逸の化學者は、此の方面に於て、最も新奇且つ赫灼の事功を遂げ得たり。一八六〇年の頃には、染料として使用せらるる所のもの、總て有機物にして、獨逸は殆ど全く其の供給を外國に仰ぎ、年々の輸入價額五〇、〇〇〇、〇〇〇馬克を以て算せられたり。而も化學的染料の製造發明せられてより、事情全く一變し、一九〇〇年に迫ひて、輸入は殆ど皆無となり、輸出は反つて一〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗の巨額に達せり。而して「

「コールター」染料の製造は、今尙ほ獨逸人の殆ど全く占有する所なり。
 「コールター」染料製造の原料は、瓦斯及び骸炭製造の際に生ずる副産物にして、從來單に無益なるのみならず、有害として排斥せられたるものに屬す。今や獨逸人は其の國內に於ける「コールター」を利用して剩す所なきのみならず、英國、白耳義及び澳匈國等より、「ベンゾール」として、之を多量に輸入す。而して此の輸入の大部分は染料として、其の價格を倍加し、再び以上の諸國に賣戻さるゝ也。
 世界の染料産額の五分四、及び「コールター」より製出する藥劑の大部分は、獨逸の製出に係る。染料のみを以てするも、一八九七年の概算によれば、製出年額一二〇、〇〇〇、〇〇〇馬克に達せり。

人造インヂゴの發明

過去數世紀間に亘りて、「インヂゴ」は紡織業國に對する、重要輸入品目の一に數へられたりき。即ち一八九二年に於

て、獨逸が輸入したる天然インヂゴは三、五五六、七四〇封度(其の價額四、四五〇、〇〇〇弗)なりき。然るに一八九七年、ミュンヘンの化學者、ドクトル、バイエルが人造インヂゴを製造する方法を發明してより、獨逸に於ける此の貿易は全く革命の運に遭逢し、一九〇二年の天然インヂゴ輸入は僅かに八三三、〇〇〇封度に減少し、其の翌年の人造インヂゴ輸出は却つて一八、三〇八、〇〇〇封度に達したり。此の如く重大の影響を、一大産業に及ぼしたるドクトル、バイエルの發明は、「コールター」より獲たる「アンストラシン」より「アリザリン」と稱する人造インヂゴを製出するにあり、一たび此の發明ありてより、獨逸は遂に高價を拂ひて、此の染料を輸入するを要せざるに至りたるのみならず、其の輸出によりて、莫大の國利を收め得るに至りたる也。

以上は只だ僅かに、獨逸が其の化學者の辛苦勤勉により收め得たる利益の一例に過ぎず。此他甜菜糖業の如きも、農業化學者の研究に負ふこと極めて多く、甜菜に含有する糖分は、一八四〇年の頃に於て五分七厘なりしもの、今や一割三分の多きに上れり。

化學的染料製造業

染料製造業に従事する大會社の名稱、其の外國分工場所在地、使用人員、資本額等を列擧すれば左の如く、以て此の重要工業の大勢を示すに足るべし。

會社名	化學者及技師員數	職工數	資本金額
アニリン製造株式會社	化學者 五五		
本工場 伯林	機關師 一〇	一、五五〇	二、〇〇〇、〇〇〇
分工場 佛國のセント、フォン	技師 二一		
露國の莫斯科及び ツバウ	事務員 一五〇		

會社名	化學者及技師員數	職工數	資本金額
ペヂン會社	化學者 一四八		
本工場 ルドウイクシャーフエン	技師 七五	六、三〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
分工場 佛國のナージュイール	事務員 三〇五		
露國のフチルキ	化學者及技師 八〇	一、八〇〇	
レオホルト、カツセラ會社	事務員 一七〇		
本工場 フランクフルト	化學者 一五〇		
分工場 佛國の里昂	機關師 二七	四、二〇〇	四、七五〇、〇〇〇
露國のリガ	技師 一四八		
バイエル會社	事務員 一七〇		
本工場 エルベルフェルト	化學者 一五〇		
分工場 佛國のセント、フラ	機關師 二七	四、二〇〇	四、七五〇、〇〇〇
ミユールハイム染工場	技師 一四八		
本工場 ミユールハイム	事務員 一七〇		
分工場 佛國の里昂	化學者 一五〇		
ルシアス及ブリユニヒ染料工場	機關師 二七	四、二〇〇	四、七五〇、〇〇〇
本工場 ホヒスト	事務員 一七〇		
化學者 一二九			
機關師 三六		三、五〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇

分工場 佛國のクレール
露國の莫斯科

事務員 二二一

カレン會社

本工場 ビーベリヒ

一二八 五〇〇

分工場 ワルンツ

紐育

ケイ、エイレル

八〇 四五〇

工場 オツフエンバフ

ゲイ、シイグル會社

四四 一〇六

工場 スタットガルト

(五) 紡織業

大規模工場以前の紡織業

『三十年戦争』以前、獨逸が商工業の繁盛を

喜びつゝある頃の重要輸出品は、「リンネル」及び羊毛製品なりき。

紡績及び機織の業は、麻の耕作及び羊の飼養と相並びて、極めて廣く民間に行はれたり。斯くて獨逸は多年の間、世界の織布市場を支配し、英國、露西亞、西班牙及び伊太利に對し、織布を以て比較的多額の貿易を行ひたり。英國が競争者として出現したるは、十七世紀時代にして、次で十八世紀に及び、紡績機械、動力應用の機杼、蒸汽機關等の發明は、英國をして大資本の組織により、他國の愈々及ばざる廉價を以て、各種の織物を製出せしむるに至れり。英國は深く發明の秘密を隠し、機械、模型若くは設計の輸出を禁じたりしかば、長く其の利益を自己の手に保留することを得たり。一七九八年に至りて、遂に紡績工場を設立したるものあり、これを獨逸に於て水力を以て運轉する紡績機械を使用したる嚆矢にして、次でナポレオンが大陸封鎖の策を行ひたる間、英國織布の供給全く杜絶せられ、獨逸の工業

は一時的刺激を與へられたるも、輸入の牆壁撤去せらるゝと共に、再び微々たる状態に沈淪せり。
 關稅同盟は、紡績業の爲めにも、國內市場の範圍を擴大にし、新資本の放下及び新機械の移入を促かし、次で一八三六年及び一八三九年の恐慌は、微弱にして進取的ならざる製造者を掃蕩して、大に面目を改めしが、此の危機を無事に経過し得たるものも、技術に於て英國に及ばざること尙ほ甚だ遠かりき。綿絲紡績に於ける自働錘の使用の如きは、其の適例にして、英國の紡績業者は、一八三〇年以來之を使用し、一八三四年に於ける六十工場の使用錘數既に四〇〇、〇〇〇を以て算せられたるに、獨逸に於ては、一八六〇年に至りて漸く其の使用を見たり。只だ工賃の低廉なる一事ありて、僅かに獨逸をして、競争を試み得せしめたり。而も英國の工賃高きことは、製造業者を驅

りて、勞力を節約すべき機械の完成に腐心せしめ、此の如き機械は結局、製造費を低減することに關して、廉價なる工賃よりも更に有力のものとなれり。家内の製造の方法が、永き間獨逸の産業、特に機織業に残留したるは、全く工賃の低廉なりしに由る。

一八六五年以後の低率なる關稅は、獨逸諸州に於ける製糸業に一打撃を加へたり。索遜の如き、一八六一年の錘數は七〇七、八四四と算せられたるに、一八七五年には四七一、三八七に減少したり。此の時期に於て水力を使用する紡績工場(約五十)は、總て衰滅に歸したり。而してアルサス、ローレーン二州の領有により、獨逸の製造業者は、

國內にも亦強力なる競争者を有するに至れり。

紡織業の新時代

獨逸の紡織業が、家内の組織より工場的組織に移りたるは、甚だ遅かりき。十九世約の中葉に至るまでも、尙ほ紡織業

の大部分は、工場外に於て行はれたり。一八五〇年の概算によれば、麻絲紡績の錘數約一、五〇〇、〇〇〇の内、工場の錘數は僅かに六五、〇〇〇なりと云へり。而して機織業は、紡績業よりも更に長く、家内の産業たる命脉を保ち、現時尙ほ手機に従事するもの一〇〇、〇〇〇の多きを算す、但し其の大部分は絹布の如き、特殊の製造に限らる。技術上の改良より云へば、機織業却つて紡績業に一步を先んじたり。十九世紀の初年に於ては、一人の機織工に、其の使用する織絲を供給する爲め、十人の紡績工を要し、織絲に對する需要の盛なる、遂に在營の兵士を用ゐて紡績に従事せしむるに至れり。然るに一八九五年には、此の状態全く一變し、機織人員は紡績人員の二倍を以て算せられたり。十九世紀中葉に於ける、紡績職工解除の勢、極めて迅速にして、職業を轉ずる能はざる無智無力者の多數をして、大なる困難に陥

らしめたり。一八四九年に於て、獨立紡績工の數、八四、〇〇〇と算せられたるもの、一八六一年には一四、五〇〇に減少せり。索遜は獨逸綿絲業の中堅にして、其の消費する棉花、輸入總額の三分二に上る。獨逸綿製品の六分五は國內に於て消費せられ、輸出額の五分一は英國に向ひ、其他は米國、露西亞、和蘭、瑞西、澳地利の諸國に向ふ。

英佛米との比較 一八九五年の統計により、獨逸の機織業を、他の強大國と比較すれば左の如し。

英、佛、獨、米機織業製産額比較表

	綿	毛	絹	リンチン	合計
英國	四〇,五〇〇,〇〇〇 ^弗	三〇,八五〇,〇〇〇 ^弗	三〇,〇〇〇,〇〇〇 ^弗	一五七,〇〇〇,〇〇〇 ^弗	九五六,〇〇〇,〇〇〇 ^弗
佛國	二二,〇〇〇,〇〇〇	二二,三五〇,〇〇〇	一四,一〇〇,〇〇〇	九六,〇〇〇,〇〇〇	五七五,五〇〇,〇〇〇
獨逸	一七,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇	八,二五〇,〇〇〇	七,五〇〇,〇〇〇	五四,一〇〇,〇〇〇

米國 三九,〇〇〇,〇〇〇 二二,〇〇〇,〇〇〇 九,〇〇〇,〇〇〇 三三,〇〇〇,〇〇〇 六五,〇〇〇,〇〇〇
 一八四〇年に於て、英國は世界の市場に出づる棉花の五割五分乃至六割を消費したるも、一九〇〇年に於ては僅かに二割五分に過ぎず。近時、綿糸布其他附屬の製造業に於て、最大の進歩をなしたるは、棉花を産出する諸國、特に米國にして、英國は遂に、棉花消費國としての首位を米國に譲るに至れり。即ち左表の如し。

獨、英、米諸國棉花消費高比較表

	獨逸	英國	米國	印度
一八三六—四〇年平均	九,〇〇〇	二〇六,〇〇〇	六〇,〇〇〇	—
一八五六—六〇年平均	四六,〇〇〇	五一八,〇〇〇	一七九,〇〇〇	一三,〇〇〇
一八七六—八〇年平均	二二四,〇〇〇	六三九,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	八六,〇〇〇
一八八七—八九年平均	二〇五,〇〇〇	六八一,〇〇〇	四七六,〇〇〇	一五八,〇〇〇
一八九九—一九〇〇年平均	三三三,〇〇〇	七九四,〇〇〇	八六二,〇〇〇	二二七,〇〇〇

二十年前獨逸は、倫敦を経て其の所要棉花を輸入したりしも、今や直

ち。之をブレメン港に輸入す。ブレメンの取引所は、棉花賣買に關し、獨逸及び隣國の最大中心にして、今やリヴァプールに次ぐべき世界的市場なり。

領土内に於ける棉花栽培の企圖

獨逸は其の要する棉花の供給を、殆ど

全く米國に仰ぎつゝあり、一九〇三年の輸入額左の如し。

米國より輸入	二六八、〇八七
英領印度より輸入	七九、〇五六
埃及より輸入	三〇、八七二

此の如く大工業の原料たる棉花の供給を、其の二大競争國より仰ぎつゝある事實は、近年に至り、獨逸國政府をして、阿弗利加の殖民地に於て、棉花栽培を企圖せしめたり。其の領土内に棉花を産出せざる限り、獨逸は常に其の競争國に對して、莫大の貢獻をなすのみな

ら。ず。其。の。重。要。な。る。大。工。場。を。し。て。政。治。的。經。濟。的。事。變。の。影。響。を。蒙。る。べ。き。危。險。の。地。位。に。立。た。し。む。專。門。家。の。明。言。す。る。所。に。よ。れ。ば。阿。弗。利。加。殖。民。地。の。内。特。に。ト。ゴ。ラ。ン。ド。は。最。も。棉。花。の。栽。培。に。適。し。同。地。方。の。棉。花。は。優。に。『ミッドリング』及び『フルリー、ミッドリング』に匹敵すと云ふ。

(六) 農 業

農業と政治經濟問題

各種の産業、孰れも隆盛を誇りつゝある間に、獨り農業のみは、之を例外に置かざるべからず。一八七五年以來、獨逸の農業状態は甚だ不満足にして、農業問題は實に、獨逸經濟界に於ける、最大難件の本源たる也。所謂農民黨なるものは、往々にして、其の頭數以上の大勢力を揮ひ、他の産業の利益と背馳する、反動的保

守的方針を助成するに至る。現時其の勢力の如何に大なるかは、露西亞及び澳匈國と締結せられたる新通商條約が、徹頭徹尾、農民の利益を増進し、他の産業に不利を與ふるによりて知るべし。此の條約締結に際して、獨逸は舊條約に於けるが如く、農産物の輸入に關し、格別の讓歩をなすを肯んぜざりしが故に、當然の結果として、其の製造品輸出に關し、條約國をして讓歩をなさしむる能はざりし也。一八四〇年より一八七〇年に至るまでは、農業大繁昌の時代にして、農産物の價格は、騰貴に次ぐに騰貴を以てし、而して製産費は、主として科學的耕作方法の應用せられたるが爲めに、著るしく低減せり。此に於て、地價は事業の利益に伴ひて上騰し、土地の大部分は頗る高價に質入せられたり、即ち現時の計算によれば、土地抵當の負債額は、總地價の四分三に達すと云ふ。

獨逸農業衰退の原因

然るに一八七〇年代に迫りて、事情全く一變し、農業は衰退の一方に傾きたり。此の如き衰運を來したる重要原因は、米國の競争に伴ふ農産物價格の大下落にあり。ミスシツピー平野開拓せられてより、米國の農産物は巨額の剩餘を生じ、同時に海陸運賃の大に低減せらるゝあり、米國産の穀類は滔々として歐洲に流入し、斯くて歐洲市場の價格を支配する要素となれり。即ち一八七六年より一八九八年までの間に、關稅率の屢々引上げられたるにも拘はらず、小麥の價格は一割四分、大麥は一割一分、裸麥は一割四分の下落を示したり。即ち輸入小麥に對する關稅率の如き、一八七九年に於ては毎噸十馬克なりしもの、一八八七年には忽ち五十馬克に引上げられしなり。若し此の如き關稅率の改正なかりしならば、小麥の價格は四割乃至五割の下落を示したるべき也。

又此の期間に於て、農作労働者の賃錢は漸次上騰し、而して労働者の多數は、他の産業に吸収せられ、今や東方諸州の如き、傭夫の力を頼みとする地方に於ては、農繁時期に際し、労働者の欠乏甚だしきに苦しみ、僅かに波蘭及び露西亞よりの出稼人夫を集め、當座の急を救ひつゝあり。此の困難は、農業なるものが、益々間歇的となり、人を用ゆること多きも、之を用ゆるや極めて短かく、季節以外の長日月間、何等の職業をも供すること能はざる事實により、愈々甚だしきを加へんとす。打禾作業に蒸汽機關の應用せられたることも亦、此の困難を増進せり、由來此の作業は、農作労働者をして、冬季に手を空ふせしめざりしが故なり。

獨逸農業者の怠慢

以上の外、農業の衰退を來したる原因を求むれば、之を農業者自身の罪に歸せざるべからず。由來農業なるものは、

甚だ亂雜なる非事務的方法を以て行はれ、一旦事務的方法の必要を感ずるに至るも、因習の久しき、地主は全く其の能力を缺けり。即ち資本の使用の如き、特に土地を抵當として必要なる運轉資本を借入るゝことの如き、製産品を有利に販賣することの如き、大地主も小地主も、一樣に皆瞶々として識る所なかりき。近時漸く此點に關し、著大の進歩を見るに至りたるは、農民間に於ける教育の普及と、往々國家の援助により組織せられたる共存組合の賜と云はざるべからず。十九世紀年間に於ける農業の變遷、甚だ大なりしに拘はらず、土地所有の形式は依然として舊態を改めず。賃貸の方法、行はるゝは甚だ稀にして、大部分は自作の方法による。所有地區の大小及び耕作の方法を以てすれば、獨逸全國を分ちて三區となすを得べし。第一區に屬するは東方諸州にして、此の地方には大地主制度行はれ、「エン

ケル」と唱ふる貴族的地主あり、傭夫を集めて耕作をなさしむ。此の「エンケル」は即ち農民黨の中髓にして、其の社會的地位高きのを以て、實際の員數に比し遙かに大なる政治的勢力を有す。第二區に屬するは北西諸州、中央諸州及びバヴァリアなり。此の地方の農民は、概して廿五乃至二百五十エーカーの土地を所有し、傭夫の助を籍りて、自ら耕作に従事す。第三區は即ち南西諸州にして、土地の區劃甚だ小く、一家の所有地積、概して十五エーカーを超えず、極めて聚約なる耕作を以て、一家を支へつゝあり。ライン地方の如き、十二エーカー半以下の耕區を以て既耕地の五分四以上を占む。獨逸全國を通じて、二百五十エーカー以上の大地主に屬する地面は、耕地全積の四分一に過ぎず。之を要するに獨逸は、依然たる自作農國なり。

農業附隨の製造業

甜菜糖の製造及び酒精の醸造は、農業と密接の

關係を有する産業なり。一八七〇年以前に於ける農業の繁榮は、此の二者に負ふ所多く、爾後の衰退も亦、以上製品の價格の下落に基く所多し。倫敦の甜菜糖相場は、一八七六年に於ける五弗四十二仙（毎ハンドレット、ウエート）より下落して、一八九七年には二弗十四仙となれり。

(七) 産業組織の發達

遲緩ながらも確實なる發達 獨逸に於ける大産業組織の發達は、之を英國及び白耳義に比して、一時代を遅れたり。其の理由は、既に論述したるが如く、十九世紀の前半を通じて、資本の欠乏したる事、市場の範圍一樣ならざりし事、運搬方法の改善極めて遅々たりし事、及び一般の人心が保守主義に拘束せられたる事等にあり。現時に於て

も獨逸の産業は、小規模を以て行はるゝもの、尙ほ比較的多きを占む。米國の如きは、手工的小産業、未だ其の基礎を定むるの暇あらずして、早くも組織的風潮の支配する所となれり。澳地利及び伊太利の如きは、法律を以て人爲的に、此の風潮を抑制しつゝあり。

大規模製産業の増加

獨逸の産業統計により、一八八二—一九五年間に

於ける、組織的發達の趨勢を概括すれば、左の如き數字を得べし。

獨立して製造、建築、鑛業等に從事する人員

一八八二年 二、二〇九、〇〇〇 人口二千に付き 四八・三

一八九五年 二、〇六一、〇〇〇 人口二千に付き 三九・六 一割八步減

勞働者及び徒弟として使用せらるゝ人員

一八八二年 三、六〇六、〇〇〇 人口二千に付き 七九・七

一八九五年 五、六七一、〇〇〇 人口二千に付き 一〇七・四 三割五步増

技師、會計掛其他役員として使用せらるゝ人員

一八八二年 一八八、〇〇〇 人口一千に付き 二・六一
 一八九五年 二六八、〇〇〇 人口一千に付き 五・一五 九割七步増

動力を用わず若くは助手を置かざる小事業に従事する人員

一八八二年 一、四三〇、〇〇〇 人口一千に付き 三一・三
 一八九五年 一、二三七、〇〇〇 人口一千に付き 二五・七 二割四步減

使用人員五人以下の事業に使用せらるゝ人員

一八八二年 七四五、〇〇〇 人口一千に付き 一六・三
 一八九五年 七五二、〇〇〇 人口一千に付き 一四・四 一割一步六厘減

同五人乃至十人の事業に使用せらるゝ人員

一八八二年 四九、二〇〇 人口一千に付き 一・〇八
 一八九五年 七七、九〇〇 人口一千に付き 一・五〇 三割九步増

同十一人乃至五十人の事業に使用せらるゝ人員

一八八二年 三五、八〇〇 人口一千に付き 〇・七八
 一八九五年 六一、六〇〇 人口一千に付き 一・二八 五割一步増

同五十人以上の事業に使用せらるゝ人員

一八八二年 九、五〇〇 人口一千に付き 〇・二〇五
 一八九五年 一七、九〇〇 人口一千に付き 〇・三四五 六割八步増

一千人以上の使用人を有する事業の數

一八八二年 一二三三
 一八九五年 二四八 七割八步増

使用人の數により、事業を大、中、小に區別すれば、従業人員の割合比較左の如し。

	小事業 (従業者 十人以内)	中事業 (従業者 十一人 乃至 五十人)	大事業 (従業者 五十人以上)
一八八二年	百分 六一	百分 二二	百分 二六
一八九五年	百分 四七	百分 一七	百分 三六

資本的産業の發達は、各商社に於ける使用人員の増加を來し、又個人經營及び合名組織に比して、株式會社の増加を促かすを當然とす。

	株式會社の數	資本金額
一八八六年	一、三三七	一、九〇四、〇〇〇 <small>馬克</small>
一八九六年	二、三〇七	三、五二一、〇〇〇
		<small>百分ノ</small> 七三
會社數増加の割合		八四
資本金増加の割合		八四

カーテルの組織

此の如く事業の單位、漸次其の大きさを加へたると共に、十九世紀の末年に至り、個々の商社協同して、『シンジケート』若くは『カーテル』を組織するの趨勢を生じたり。獨逸の『カーテル』は、全く米國當初の『トラスト』と同じく、利益の共通計算にして、各會社は依然獨立の組織として、法人たる權能を保持すると共に、或る目的の爲めに、全體の利益を代表する委員若くは役員會の管理に服従するものとす。米國に於ては、非トラスト的法律制定せられ、此の

如き結合を禁止したるを以て、各會社は遂に全く大合同をなすに至りしも、獨逸政府は『カーテル』に干渉する政策を執らざるが故に、諸會社は未だ、米國に於けるが如く最後の手段を必要とせざる也。『カーテル』の多數は、事業不振の時代、特に一九〇〇年に於て、各種産業の困難を救済し、利益を擁護せんが爲めに組織せられたり。『カーテル』組織せられてより、専ら生産と消費の權衡を安排するに勉め、以て恐慌の危険を減殺し、公共の利益に資したること尠しとせず。且つ獨逸『カーテル』の組織に際しては、米國の『トラスト』流行時に於けるが如く、株式濫造及び投機の弊甚しきに至らざりき。而も獨逸の『カーテル』は未だ、其の原料市場及び製品市場を、同時に掌握して、特殊製品の專賣權を樹立するの大勢力を有せず。其の組織により齎らし來れる利益は、遙かに其の弊害を償ふて剩あるが故

に、政府及び人民の之に對する反感は、米國及び英國の如きに至らず。獨逸人は「カーテル」を觀て以て、外には輸出貿易の利益を増進し、内には産業の基礎を鞏固ならしむる、一種の勢力となす也。

産業組織の一例一害

「カーテル」に對する最大の非難は、製品の賣價を海外に低くし、國內に高くすと云ふに在り。輿論の稍く「カーテル」に對して不利なる所以は、此の争ふべからざる事實に基くこと多し。例せば石炭「シンジケート」の如きは、炭礦附近の工場に供給するよりも遙かに廉價を以て、漢堡の輸出者に供給しつゝあり、即ち炭礦と漢堡間との距離、及び之に伴ふ巨額の運賃を全く無視したる計算にして、冠履顛倒の非難を免かるゝこと能はず。ヨークス「シンジケート」の如きも、澳地利に對しては、國內に於けるよりも、一噸に付二弗二十仙を引下げて、其のヨークスを賣り。條釘「シンジケ

ト」の如きは、國內に於ては一噸六十二弗五十仙、外國市場に於ては三十五弗の相場を以て、其の製品を賣り。一九〇〇年に組織せられて、國內産額の九割八分を占有する砂糖「シンジケート」の如きは、甜菜糖の内國販賣價格を三弗九十三仙（每ハンドレット、ウエート）、國外價格を二弗九十七仙と定めたり。景氣不良の時期に際し、廉價を以て外國市場に多量の投資をなし、以て國內市場に於ける生産超過の苦痛を減ぜんとするは、「シンジケート」の慣用手段なりと雖も、國內の賣價を高くし、以て外國市場に於ける損失を、償ふものなりと評するは、概して不當の言たるを免れず。

「シンジケート」なるものが、勞働社會の幸福に、如何の効果を齎らしつゝあるかは、未決の問題なりと雖も、其利の及ぶ所、其弊よりも大

なるは殆ど疑を容れず。『シンヂケート』の組織ありてより、各種の産業に對し、國內の情勢を有利ならしめ、生産の率を確實ならしめ、其の價格を騰貴せしめたりとせば、此等の事實は必ず労働社會を利せずんばあらず。而して又、傭主を代表するものは概して宏潤の見識を有し、被傭者を好遇するは、即ち事業の利益を永久に増進する所以なることを了解する人々なるべきを以て、労働社會の利益は、『シンヂケート』の管理により、寧ろ鄭重に考慮せられずんばあらず。且つ夫れ、被傭者の健康及び娛樂に關して、種々の方法を講じ、設備をなすは、小會社よりも大會社を以て便とするや論なし。『クルップ』の如き大會社なればこそ、職工の利益の爲め、模範的住宅、教會、圖書館等を建設すること、他の小傭主に比して、甚だ容易なる也。

第五章 獨逸人の實業的適能

獨逸實業發達の原因——國民の經濟的品性——資本家と勞作者——獨逸人種の特長——人口増加の影響——生活の困難と勞作の氣風——國民の遵法的精神——軍備制度の影響——一箇年兵役の特典——最も組織に適する人種——科學と實業との連絡——技術發明の能力——資本運用の能力——佛國移民の感化——市場開拓の好手段——英國人の保守と獨逸人の勇進——獨逸商人の外國に關する智識

獨逸實業發達の原因

獨逸が躊躇逡巡して何等の企圖をも行ふ能は

ず、徒らに他の進歩發達を傍觀しつゝある間に、十九世紀の三分一を經過したり。斯く十九世紀の三分一を經過したる後、獨逸は始めて、産業進歩の時期に入れり。而して其の進歩たる、當初は甚だ遅緩なりしも、十九世紀の末年に至りて、異常の速度を加へ、今や獨逸は、世界の産業的強國として、英米兩國と比肩するに至りぬ。事實洵に此の如し。乞ふ仔細に其の原因を討尋せむ。

一八七一年に至るまで、獨逸が産業上の進歩に於て、英國に追躡する能はざりし所以の概略は、既に第二章に論述せり。即ち獨逸産業の障礙が、外敵の侵畧及び之に伴ふ富の破壊、中世的經濟制度の存留、政治的統一の缺陷及び之より生ずる商工業の抑制等にありしを見れば、理論の當然として、此等障礙の除去せられたる事は、或る程度まで、輓近の進歩を説明するに足るべし。

獨逸産業繁榮の原因として數ふべきもの、固より乏しからず、考究し來れば、却つて其の多きに苦しまずんばならず、原因複雑なれば、其の大小輕重を較量して、誤りなきを期すること難し。英國並に獨逸に於て、高率の保護關稅政策に左袒する論者、例せばドクトル、ルドルフ、マルチンの如きは、獨逸が一八七九年に於て、自由貿易政策を擲棄したる事を以て、産業發達の大原因となし、而して此等の論者が提供する統計表は、之を多數の産業に推及せざる限りは、以て其の論旨を立證すべきものあり。英國に於ても、チエンパーレーン氏の經濟政策を説明せんが爲めに、引用せらるゝ流行の論證は、獨逸に於ける或種の産業が、保護關稅の下に發達したる事實にあり。而も多少の研究を以てすれば、眞正の原因が、更に深き點に存在することを知るに足らむ。以下、章を追ふて、根本的原因を討尋すべし。

國民の經濟的品性

一國民の經濟的品性、例せば或種の商業及び工業に對する適不適は、經濟狀態の原因たると共に、又其の結果たり。されば産業的現象の解釋を、全く國民の品性のみに求めんとする論者は、此の如き品性も亦、大部分は、過去の狀態より胚胎せる結果に外ならざる事實を看過するものなり。而も又、國民の品性たる、變化甚だ徐々にして、其の變化たる、長歲月に亘れる經濟狀態の結果なるが故に、過去二三十年間に於ける産業變化の原因を探求するに當り、獨逸國民の品性を以て、第一主要のものとなすも、決して大過なかるべし。

資本家と勞作者

何人も熟知する如く、資本的製産には、二個階級の存在を要す。即ち、(一)製産の技術及び業務の經營に關する智識を蓄へ、組織的實行的能力を有し、兼ねて資本を擁する人々より成る階

級、(二)勞力を以て生活を支へ、賃錢の爲めに其の勤務を事業家の用に供し、斯くて産業組織の中に吸収せらるゝを厭はざる人々より成る階級、是なり。但し最も繁榮せる産業國に於ても、總ての人口を此の二階級に區分し、甲者に屬せざるものは、必ず乙者に屬すと云ふ能はざるも、一國民の産業的能力を論ずるに當りては、自ら觀察の範圍を、事業家と備役者との二階級を區分すべき品質に限らざるを得ず。

事業家と備役者との二階級に、人民を區分するは、資本的組織の發生と時を同ふす。往時に於ける區分、即ち主人、傭工及び徒弟の區分は、現時の區分と全く其趣を異にせり。往時の傭工及び徒弟も、給金を受取りたるに相違なきも、其の主人に對する關係は、現時の職工が傭主に對するとは異り、主人家族の一員として、將來自ら主人たるを

得るの望ありし也。現時の被傭者なるものは、事業家たるの望なく、而して其の作業は、到底、事業家となるべき訓練を、何等の形式を以ても附與するものにあらず。傭者と被傭者との資格は、劃然區別せられ、甲者を論ずる、必ず甲者の觀察點よりし、乙者を論ずる、必ず乙者の觀察點よりせざるべからず。

獨逸人種の特長

獨逸人種の通有性にして、其の特に拉丁人種と異なる所は、體力の強健なると、耐久力に富むとにあり。酷烈なる氣候は、前代の獨逸人をして、冬期の用に供へんが爲め、多分の衣食品を準備せざるを得ざらしめたり、而も多分の準備を、其の住居する寒瘠の地より収集せんには、只だ極度の勤勉と忍耐とを以てするにあるのみ。此の如く、數世紀に亘りて、生活の爲めに餘儀なくせられたる天然との奮闘、及び侵畧に餘儀なくせられたる他國との奮闘は、獨逸

國民間に剛堅耐苦の氣質を養成せり、此の氣質は即ち産業の大利益を齎らす所以にして、特に労働者の階級に於て然りとす。

獨逸は現時、年々の人口増加率に於て、歐洲諸國の首位を占む。單に其の出産率を以てすれば、露西亞の每一萬人に對する四九五、澳地利の三六六、匈牙利の三七九に及ばざるも、其の死亡率遙に低きが故を以て、結局最大の増加率を示しつゝあり。而も其の出産率のみを以てするも、每一萬人に對する三六三の多きに達し、之を佛國の二二六に比し、相距ること甚だ遠きを見る。獨佛兩國は、人口増加の程度より見て、歐洲に於ける高低の兩極にして、毎年出産率の相違は、之を一世紀の久しきに推及し、甚だ顯著なるものあり。即ち一八二〇年に於て、佛國の人口は獨逸よりも多きこと四百萬なりしもの、今や獨逸の人口は、海外への移住數甚だ多きに拘はらず、佛國よりも多きこ

と二千萬となれり。即ち人口の點より云へば、曾つて獨逸よりも大國なりし佛國は、百年を経ずして、僅かに獨逸の三分二となりし也。

人口増加の影響

人口の増加は産業の要件なり、若し更に國民の産業的品性に及ぼす効果を測定すれば、其の因つて繋る所、極めて大なるを知らむ。凡そ一國民なるものは、概して、餘儀なき事情に迫らるるに至り、始めて進歩し發達す。而して限りある國內の資源に對し、限りなき人口増加の壓迫は、産業の進歩を餘儀なくせしむる事情の最たるものなり。例せば、兒童の數、一家平均二人なりとすれば、子は父の地位を繼承し、何等自ら工夫する所なくして、少くとも其父に劣らざる生活を維持し、快樂を享受することを得べし。佛國農民の狀態實に此の如し。彼等は其子に對して、能ふ限り大なる財産を譲らんとするに勉むるが故に、子は只だ其父の地位を繼承するに満足し、

依然たる保守因循の生活を持続するのみ。危險を冒し、勞苦を忍び、失敗を賭して、新工夫を廻らすの必要もなければ、慣れたる農業を棄て、他の産業に轉ずるの必要もなし。されば佛國に於ては、勞働者の増加により、其の傭役を産業に要求する壓迫の事情生ぜざる也。一家族の頭數多き獨逸に於ては、其の事情全く佛國と相反す。子は父の財産中、其の一部分を相續するに過ぎず、相續財産以外に收益を穫るの道なくんば、遂に其の生れたるよりも低き經濟階級に墮落するの外なし。而して此の如き經濟的墮落は、獨逸の如き社會階級の區別嚴密なる國に於て、各自其力を盡して防止せんとする所也。此に於て乎、父なるものは、其子に大なる遺産を譲らんが爲めに辛苦するよりも、寧ろ其の爲し能ふ限り、彼等を教育し訓練し、以て將來の運命を開拓すべき資質を養成するに勉む。

小地主の制行はれ、其の地積甚だ小さく、分割の餘裕なき地方に於ては、遺子中の一人にて父の所有を繼承し、之を抵當に入れ、以て其の兄弟に多少の分配をなす。而して土地を繼承せざる子は、都會及び製造業地に職業を求めて、労働者の群に投ず。此の如く職業を求むる労働者多くして、資本的生産の一要件備はる。上流社會に於ける、家族の頭數、多きことも亦、産業の進歩に効果を及ぼす所以なり。此種の階級に屬する獨逸の子弟が、其の生得の經濟階級に於ける地位を維持せんが爲め奮勵するや、下等社會の子弟よりも、更に激烈なるものあり。父は多數の子に對して、各々大なる財産を遺す能はざるが故に、主として彼等に最良の教育、即ち經濟上の利器たるべき教育を與ふるに勉む。十五年乃至二十年前に於ては、彼等の身を立つべき行路、只だ軍隊、官廳、教會若くは法、醫等の

高等職業にありと思考せられたるが、今や産業の發展、及び社會的思想の開進は、商工業に關する高等教育の機會と相伴ひ——此の教育は社會上、從來の大學教育と地位を等ふるに至れり——商工の業務に、一種の威嚴を附與し、上流社會をして心を傾けしむるに至れり。斯くて最も完備せる方法を以て、教育せられ、訓練せられたる、上流社會の青年は、事業家たるの望を懷きて、其身を商工業に投ずるに至れり。而して此の如き青年は、漸次其の地位を進め、若くは獨立の業務に従事するの機會を逸せざらんと戒しめつゝある也。

此の如くにして、人口の増加は、資本的産業の發達に必要なる經濟的二階級、即ち事業家及び労働者の團體を、間斷なく補充しつゝあり。事業家の階級には、最良の訓練を受けたる有爲の青年、陸續として投し來るあり、而して労働者の階級は愈々益々其數を増加し、何時にて

も、低廉の賃金を以て、長時間の作業に服するを厭はざる一隊を驅り集むるに難からず。人口の増加は又、國內産業の爲めに、購買者の數を益々多からしむ。國內市場の擴張と共に、各種の産業は、其の規模を大にし、因つて以て其の製品を廉にするを得べく、更に又、國內の需要を超過したる、廉價の製品は、海外市場に他國品と競争するを得べし。人口の増加が、外國食糧品の輸入を多からしむることも亦、食糧品の代價は製産品を以て支拂はざるべからざるが故に、國內産業の發達を刺激する所以なり。

生活の困難と勞作の氣風

獨逸人種の剛堅耐苦なる天性は、其の生活の艱難なる事によりて、永く持續せられたり。土地は概して貧寒なるが故に、農夫は少量の收穫を得んが爲めに、長く且つ強く勞作せざるべからず、而して輓近中央集權の制度に伴ひ、社會思想の開進する

以前に於て、政府なるものは曾つて、農民の負擔を軽減するに想到したることあらず、却つて誅求をこれ事としたり。されば獨逸人は、僅かに其の口を糊するが爲めに、辛苦勞作せざるを得ざるものと信ずるに至りし也。農民以外の階級より労働者となりたるもの、即ち資本的組織の壓迫により、饑餓の外、途なきに至りて、漸く其の職業を擲ちたる手工者も亦、單に其の生活を支持するが爲めに、一日十四時間以上の勞作を常例としたりき

社會主義なるもの廣く傳播せられ、往々民心の動搖を見ることありと雖も、獨逸の職工は、少くとも、米國の職工よりも、從順平穩なりと云ふを得べし。近く十九世紀年間に至るまで行はれたる、國家及び組合の禁制は、彼等の自動心を奪ひ去れり。彼等の祖先は強制的勞役を以て、土地に緊縛せられたるものにあらざれば、自由の活動を許

さるる組合の禁制を以て、都會に拘束せられたるものなりし也。且つ夫れ、現時に於ける二年間の兵役は、彼等に命ずるに絶対的服従を以てし、思想に於ても、行動に於ても、獨立の傾向を抑制するに至る。

國民の遵法的精神

獨逸政府は干涉政府の最たるものなり。十九世紀の中葉を風靡したるマンチエスター派の自由放任説は、遂に獨逸人の腦裏に根蒂を下すに至らず、而して強固なる統一帝國政府の建設と共に、獨逸人は直ちに、萬事を國家に期待する舊慣に復歸したり。彼等は天成の法律遵奉者にして、英國人の特質たる個人的自由の觀念を有せず。獨逸人は由來大不平家にして、事毎に批判を加ふるも、彼等の不滿たる、畢竟意見を開陳するに止まる。獨逸人に對しては、禁制の一語を以てすれば足る。彼等は禁制の理由を質問するまでも、苦痛を忍びて、直ちに之に服従するを厭はざる也。米國人に

軍備制度の影響

して、獨逸に來りたるものは、先づ左右前後、繁瑣なる禁令の多きに苦しまずんばあらず、而も居ること久しからずして、此等の禁令は、眞に其の慰樂に必要なる行動を妨遏するものにあらず、却つて多くの小不便を除去するものたることを知らむ。獨逸人が此の如く遵法的なる一理由は、其の法律及び命令、必ず實行せられんことを期するが故、制定の用意最も周密なるにあるべし。獨逸の立法に於ては、未だ曾つて、米國に於けるが如く、實行すべき法律と、實行せざる法律との區別を立てず。法律既に自ら其の威嚴を持す、獨逸人たるもの、相率ゐて其の法律を尊敬するも亦宜ならずや。

獨逸人の從順なる習性は、更に又其の軍備制度によりて助長せらる。凡そ獨逸國民の男子たるものは、定則として兵

役に服せざるべからず、彼等壯丁の多くは遙かに郷土を離れ、一も二も上官の命令のまゝに、二年間の營舎生活をなさざるべからず。而して獨逸軍隊の士官なるものは、特殊の法典に支配せられ、特殊の法廷を有する別天地の社會にして、近く一八九一年に至るまで、軍法會議の裁判は、全く公開せられざりしを以て、普通の兵卒なるものは、極度の虐待を受け、蠻行を加へられたる場合と雖も、上官に對して告訴するの途なかりし也。されば獨逸の青年は、二個年間、官憲に對する無二の服従を以て訓練せられ、而して二個年間の營舎生活によりて、陶冶せられたる性癖は、服役を卒へたる彼等をして、製産事業に於ける從順勤勉の兵卒たらしむ。

近世の資本主義愈々發達すると共に、従業者の個人性は益々没却せらる。大規模製造工場之作用は、愈々益々軍隊の常務と、其の軌道を

157

近接し、機械の完備するに従ひ、人間の勞作は恰も兵卒の訓練の如く、單調となり機械的となる。勤勉、耐久、服従等の性格は、軍隊に於て養成せられ、各種産業に於て利用せらる。資本家は實に、其の傭工を訓練する學校として、軍隊に優るものを發見する能はざるべし。軍隊は又、人民をして村落より都會に移り、農業より商工業に轉ぜしむる一動機なり。軍隊の配置上、村落より徵集したる壯丁を都會の兵營に收容するを常則とするが故に、農民の子弟は、其の服役期間に於て、具さに都會を觀るべく、漸く之と親しむべく、而して遂に遲鈍なる田舎の生活を嫌ひ、都會に於て職工の團體に加入すべき、機會を逸せざらんと勉むるに至る。

社會的及び政治的の制度として、獨逸軍隊組織の得失、固より批判すべき點多かるべし、其の全國に及ぼす負擔決して輕きにあらず、其の動

作往々にして厭ふべきものなきにあらず、而も産業の發達に對しては、明らかに有利なりとの結論を下さざるを得ず。

一箇年兵役の特典

獨逸の學制によれば、九箇年學期の正則中學校に於て、六學年を修了し、若くは他の學校に於て、同等の教育を受け、試験に合格したる青年は、一箇年兵役に服すべきものと定めらる。其の待遇は普通の兵卒よりも寛大にして、自ら好む所によりて、勤務聯隊を撰ぶことを得べく、又自宅に宿泊することを得べし。要するに此等の青年は、志願兵なるものにして、二箇年服役者の如く、二十四ペンニヒの日給を受くるものにあらず、兵營内に於て他の兵卒と同一の生活をなすべき六週間を除きては、衣食共に自辨と定めらる。以上の如く教育を受けたるもの、外、技術工藝に關する特別の技術を有するもの、若くは有益の發明をなしたるもの等も、聯隊區司令官

より一年兵役證明書を下附せらるゝことを得るものとす。

一年兵役證明書は、最も名譽あるものとして、受領者の社會的地位を高からしむ。されば一箇年兵役免許者となるは、獨逸青年の祈願たり、此の祈願は教育に對する最も有力の獎勵たる也。これ即ち教育若くは技能の標準として、一般に認識せらるゝ所にして、職業を求むるもの、若し此の證明書を所有せば、傭主の其人を視ること、必ず實力以上の信用を以てすべき也。

最も組織に適する人種

此の如く、自然の境遇に加ふるに、一般の訓練を以てす。獨逸人たるもの、焉ぞ相率ゐて、組織體の分子たるに適合せざるを得んや、而して此の組織體なるものは、國家たると、大産業會社たるとを問はざる也。此の如く、個人の自由、獨立及び發動は抑制せられ、之に代ふるに、其の地位に相當する服従、忍耐及び訓練

の諸德、養成せられ、義務の觀念は主となり、自主の觀念は従となる。ソムバート教授は、此の如き獨逸人種の特質を以て、其の拉丁人種と相異なる要點の一に數へたり。

獨逸人をして、愛國的、遵法的人民たらしむるは、實に義務の觀念、牢として抜くべからざるものあるが爲めに外ならず。既に義務の觀念、此の如くに不拔なるあり、之を軍隊に處しては、正直忠實なる士官たるべく、兵卒たるべく、之を官廳に處しては、同じく正直なる長官たるべく、屬僚たるべく、之を産業に處しては、同じく正直忠實なる事務員たるべく、職工たるべし。獨逸人は、官吏としても、人民としても、國家と稱する大機關の一小齒輪たるに適する如く、事務員としても職工としても、大産業組織の分子たるに適す。實業の方式漸次其大を加へ、合名組合より一轉して株式會社となり、株式

會社より再轉して『シンヂケート』及び『トラスト』となるや、益々官廳的事務の性質を帯び來り、其の理事支配人及び役員に必要な資格は、愈々官吏の資格に類似し來る。

資本的産業の漸く興らんとする初期に於て、『アングロ、サキソン』人種の長所たる獨立心及び個人的發動は、英人をして、縦横に活躍せしむる所以なりき。されど、經濟上の發達に關する現時の趨向にして、若し永續するものとし、『シンヂケート』にして、若し經濟的單位となるあらば、共同作業に適する獨逸人の能力及び團體の利益の爲めに自己を没却する度量は、其の産業を利すこと頗る大なるべし。

目的を同ふすれば、輒ち之を貫徹せんが爲めに、直ちに組織し合同するを否まざる性格は、獨逸人が生活の各方面に亘りて、發揮する長所の一と認識せらる。然れども、獨逸人の商業に成功する所以を説明

せんと試むるもの、往々にして、此點に重きを置くに過ぐることあり、特に英國の觀察者を然りとす。領事報告中の左の一節は、以て英人の意見を代表するに足るべし。

『獨逸に於て、國內産業及び外國貿易の發達に資したる一要件は、各種の産業的企圖に關し、組合若くは合同の主義が、廣く商工業者間に傳播したるにあり。……此の方式は、英國商人の特質たる個人的經營と、全く其趣を異にすることあり。……獨逸帝國に於て甚だ良好に組織せられたる、輸出同盟組合の如きは、實に此の主義の適例なり。……産業上の聯合組合を設立する風潮は、近年に於て、同國の發達に大なる効果を及ぼしたり。』

自然の境遇と、一般の訓練とが、獨逸人をして、最も長く資本的方式の實業に適合せしめ、忠實、正直及び耐久の性情が、彼等をして、有力なる指揮者の下に隨從者たる地位を守るに相宜しからしむること、

既に論なしとするも、而も彼等が、如何なれば、斯くも僅少の年月間に於て、斯くも大なる組織的産業を發達せしめ得たるかは、尙ほ解決を要する問題たらざるばあらず。

科學と實業との連絡

現代の實業經營には、技術と財政との二方面あり。

技術的方面の根據は科學にして、各種産業經營者の爲めに先驅をなしたるは、科學者其人なりき。彼等は其の勤勞の結果が、實利の増進に應用せらるべきが如きを想はずして、只だ一意専心、物理學及び化學を闡明するに勉めたり。科學者に次ぎて現はれたるは、所謂發明家にして、彼等は往々正則の科學的教育を有せず、隣人よりは偏狂者を以て目せられ、只だ自己の發意を工夫して、或は大發明をなし、或は全く失敗せり。而して此の種類の人物は多く英、米兩國に輩出し、獨逸に於ては寧ろ少數なりき。然るに獨逸に於ては、實業と科學

との關係、英、米諸國に於けるよりも、却つて一層密接にして秩序的なるものあり。獨逸の製産業にして、其の工場と聯絡する實驗室に常任の科學者を雇聘するもの、若くは大學の専門教授を顧問として、一定の報酬を給し、其の發明を利用するの契約をなすもの、甚だ少ないとせざる也。製産工場と實驗室との間に聯絡あるもの、獨逸のみに限らずと雖も、此の聯絡が、獨逸に於て最も完備せることも亦勿論にして、獨逸は實に此の如くにして、其の優越なる科學的教育を活用し得る也。

技術發明の能力

米國及び英國に於ては、技術の進歩、概して秩序的ならず。例せば巧妙なる機械器具を工夫するが如きは、米人の最も長ずる所にして、其の發明は、深奥なる科學的智識に基づくよりも、寧ろ伶俐なる機心に頼る所多し。何等の専門的敎習を経ざる職工

が、極めて重要な發明をなしたる實例尠しとせず、彼等は日々の作業中、改良の必要を實際に認め、而して偶々之を成就し得たる也。之に反して、獨逸に於ける技術の進歩は、概して刻苦剩す所なき科學的討究に胚胎せり。獨逸人の貢獻したる所、多くは方式の改良にして、鋼鐵の製作の如き、化學製品特に染料及び藥品の製造の如き、電氣工業の技術の如き、其の實例なり。職工が其の從業中に得たる經驗よりして、發明をなしたる實例の、世に著はれたるものなきにあらずと雖も、此の如き場合は寧ろ多からず。

資本運用の能力

近時に於ける事業家の職とする所は、手近の材料を集め、之を組織して、秩序整然たる完全體となし、而して此の組織を管理運用するに在り。彼等が此の如き事業を就し得るは、資本を掌握し支配するが爲めにして、巧妙なる資本の運用は、即ち人々の所

謂、財政上の技倆なり。獨逸國に於ては、チユートン人種以外、別に財政上の技倆に秀でたる人種——猶太人あり。此の人種が、獨逸の商業界及び經濟界に有する活動の領分は、之を米國に於けると、比較して、勝ることあるも、決して劣ることなく、之を英國に於けると比較すれば、過ぐるること遙かなり。獨逸人口每一萬中の百十一は猶太人にして、米國の割合も畧く之に同しく、英國に於ては僅かに一萬人中の二十人、佛蘭西に於ては十四人、瑞典に於ては七人を數ふるのみ。而して獨逸に於ける猶太人種の職業別を見るに、每一萬人中の五千二百五人は商業に従事し（他の獨逸人は一萬人中の四百五十人）、二千百十九人は製造業に従事し、百六人は農業に従事す（他の獨逸人は一萬人中の三千六百六十五人）。されば人口總數よりすれば、猶太人は僅かに一分強に過ぎざるも、商業及び經濟に關する職業を有する

員數よりすれば、優に總數の一割一分を占む。ソムバート教授云へるあり、「猶太人は獨逸國民の商業的酵素なり」と。ライン、ウエストファリアの大工業地方に於て、猶太人の數甚だ少なく、伯林の商業中心に於て、猶太人以外の大銀行家を見るの頗る多きことは、事實上、教授が譬喩の妙味を減殺すること大なりと雖も、而も之を前記の比較數字に照して、猶太人が其の員數の割合よりも、遙かに大なる勢力を、商工業上に揮ひつゝあるは、毫も疑を容れず。彼等が資本的産業の發達に與りて、如何に有力なりしかは、大部分の社會に横溢する猶太人種排斥熱の立證する所なり。此の排斥熱の最も熾なるは、手工的製産が資本的工場製産に遷りたる爲め、苦痛を感ずること最も甚だしき社會にして、彼等は禍害の眞因が、資本萬能主義に存するを知らず、只だ此の組織を代表する階級即ち猶太